令和８年逗子市教育委員会10月定例会会議日程

令和８年10月23日（金）

午後２時30分

逗子市役所５階第３会議室

日程第１　８月定例会会議録の承認について

日程第２　教育長報告事項について

日程第３　報告第13号　教育委員会職員の人事について

日程第４　議案第12号　逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について

日程第５　その他

・部活動地域展開の進捗について

令和８年逗子市教育委員会10月定例会教育長報告事項

１　小学校運動会について

　　小坪：10月24日（土）　池子：10月31日（土）

２　地区運動会について

　　小坪・桜山：９月27日（日）　山の根：10月４日（日）　久木：10月11日（日）

　　逗子・池子：10月17日（土）　新宿・東逗子：11月１日（日）

３　令和８年度神奈川県都市教育長協議会臨時総会　10月16日（金）

４　令和８年度神奈川県市町村教育長会連合会第２回幹事会及び総会　10月19日（月）

５　第51回逗葉地区青少年音楽祭　10月12日（月）

６　令和８年度逗子市スポーツ少年団武道大会　10月12日（月）

７　令和８年第３回逗子市議会定例会について　９月８日（火）～10月２日（金）

報告第13号

教育委員会職員の人事について

教育委員会職員の人事について緊急を要したため、逗子市教育委員会教育長に委任する事務等に関する規則（昭和60年逗子市教育委員会規則第３号）第５条第１項第１号の規定に基づき、別紙のとおり教育長の専決により行ったので、同条第２項の規定に基づき報告する。

令和８年10月23日提出

逗子市教育委員会
教育長　福井　昌雄

人事異動新旧対照表（教育部）

主査以下　（2名）　（令和８年10月１日付）

職　名	氏　名	新	旧	備　考
事務職員	石場　拓実	防災安全課	子育て支援課	
事務職員	松井　律哲	保育課	課税課	

採用　（1名）

職　名	氏　名	所　属	備　考
技術職員	三田　謙介	教育総務課	

昇格

一般行政職

２級昇格

職　名	氏　名	職　名	氏　名
事務職員	北澤　滉太	事務職員	仲田　理彩

議案第12号

逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書を作成したので、ご意見を承りたい。

令和８年10月23日提出

逗子市教育委員会
教育長　福井　昌雄

令和８年度（令和７年度対象）

逗 子 市 教 育 委 員 会
点検・評価に関する報告書

逗 子 市 教 育 委 員 会

【　目　次　】

○はじめに
１　趣旨 …… ５
２　点検・評価の対象 …… ５
３　点検及び評価の方法 …… ５
４　評価者 …… ５

○令和７年度の教育委員会の活動状況
１　教育長及び教育委員 …… 11
２　教育委員会開催状況 …… 11
３　教育委員会審議案件 …… 11
４　教育委員 主な活動状況 …… 15

○点検・評価
１　子どもも大人も共につながり成長していく生涯学習のまち …… 23
社会教育課
図書館

２　文化を新たに創造するまち …… 35
文化スポーツ課

３　スポーツを楽しむまち …… 43
文化スポーツ課

４　学校教育の充実したまち …… 55
学校教育課
療育教育総合センター
教育総務課

５　ふるさとの遺産をまもりつないでいくまち …… 79
社会教育課

６　誰もが心豊かに子育て・子育ちできるまち …… 85
子育て支援課
保育課
療育教育総合センター

７　教育委員会への意見及び助言 …… 113

○はじめに

１　趣　旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されています。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

２　点検・評価の対象

教育委員会の権限に属する事務及び教育委員会が補助執行により行う事務について、逗子市総合計画中期実施計画（2023～2029）の各取り組みの方向における具体的施策ごとに設定した重要業績評価指標（KPI）等を点検及び評価の対象とします。

３　点検及び評価の方法

点検及び評価に当たっては、それぞれの目標に対する取り組み概要、自己評価、外部有識者の意見及び今後の取り組みの方向性を記載した評価シートを作成しました。

そして、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の意見、助言を記載しています。

４　評価者

次の方々から、ご意見及び助言をいただきました。

寶川　雅子氏　（鎌倉女子大学短期大学部教授）
佐久間　邦友氏（日本大学文理学部准教授）

【参考】

〇地方自治法（抜粋）

（教育委員会の職務権限等）

第百八十条の八　教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱及び教育職員の身分取扱に関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

〇地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育委員会の職務権限）

第二一条　教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

一　教育委員会の所管に属する第三十条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。

二　教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。

三　教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。

四　学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。

五　教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。

六　教科書その他の教材の取扱いに関すること。

七　校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。

八　校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。

九　校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。

十　教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。

十一　学校給食に関すること。

十二　青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。

十三　スポーツに関すること。

十四　文化財の保護に関すること。

十五　ユネスコ活動に関すること。

十六　教育に関する法人に関すること。

十七　教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。

十八　所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。

十九　前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二六条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

○令和７年度の教育委員会の活動状況

令和７年度の教育委員会の活動状況

１　教育長及び教育委員　　（　）内は任期

教　育　長	大河内　　誠	（令和５.4.1～令和８.3.31）
委　　員 （教育長職務代理者）	星山　麻木	（令和３.12.1～令和７.11.30） （教育長職務代理者　令和 2.12.17～令和７.11.30）
	若林　順子	（令和５.6.26～令和９.6.25） （教育長職務代理者　令和 7.12.1～）
委　　員	高橋　　康	（令和５.12.3～令和９.12.2）
委　　員	福田　幸男	（令和７.3.17～令和 11.3.16）
委　　員	是枝　喜代治	（令和 7.12.1～令和 11.11.30）

※ 平成 29 年度からは、平成 27 年４月１日に施行された、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づく教育長が任命されました。

２　教育委員会開催状況（令和７年度実績）

定例会１２回開催

臨時会　未開催

３　教育委員会審議案件

４月定例会　（令和７年４月 17 日開催）

日程第１　２月定例会会議録の承認について

日程第２　教育長報告事項について

日程第３　報告第５号　教育委員会職員の人事について

日程第４　報告第６号　令和７年度逗子市奨学金受給者の給付決定について【非公開】

日程第５　報告第７号　逗子市スポーツ推進審議会委員の任命について

日程第６　議案第７号　令和７年度工事計画の策定について

日程第７　その他
５月定例会　（令和７年５月28日開催） 日程第１　３月定例会会議録の承認について 日程第２　教育長報告事項について 日程第３　報告第８号　教育委員会職員の人事について 日程第４　報告第９号　逗子市社会教育委員の辞任及び委嘱について 日程第５　議案第８号　逗子市立図書館協議会委員の任命について 日程第６　議案第９号　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について 日程第７　その他
６月定例会　（令和７年６月25日開催） 日程第１　４月定例会会議録の承認について 日程第２　教育長報告事項について 日程第３　報告第10号　逗子市立体育館条例施行規則の一部改正について 日程第４　報告第11号　議案（専決処分の承認について（令和７年度逗子市一般会計補正予算（第１号））及び令和７年度逗子市一般会計補正予算（第２号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について 日程第５　その他
７月定例会　（令和７年７月17日開催） 日程第１　５月定例会会議録の承認について 日程第２　教育長報告事項について 日程第３　報告第12号　教育委員会職員の人事について 日程第４　その他

８月定例会　（令和７年８月７日開催）

日程第１　教育長報告事項について

日程第２　報告第 13 号　教育委員会職員の人事について

日程第３　議案第 10 号　令和８年度使用小・中学校教科用図書の採択について

日程第４　その他

９月定例会　（令和７年９月 18 日開催）

日程第１　６月定例会会議録の承認について

日程第２　７月定例会会議録の承認について

日程第３　教育長報告事項について

日程第４　報告第 14 号　教育委員会職員の人事について

日程第５　報告第 15 号　議案（令和７年度逗子市一般会計補正予算（第４号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第６　その他

１０月定例会　（令和７年 10 月 22 日開催）

日程第１　８月定例会会議録の承認について

日程第２　教育長報告事項について

日程第３　報告第 16 号　教育委員会職員の人事について

日程第４　議案第 11 号　議案（逗子市常勤特別職職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正について）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第５　議案第 12 号　逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について

日程第６　その他

１１月定例会　（令和７年 11 月 26 日開催）

日程第１　９月定例会会議録の承認について

日程第２　教育長報告事項について 日程第３　その他
１２月定例会　（令和７年 12 月 17 日開催） 日程第１　10 月定例会会議録の承認について 日程第２　教育長報告事項について 日程第３　報告第 17 号　議案（令和７年度逗子市一般会計補正予算（第５号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について 日程第４　議案第 13 号逗子市教育委員会公告式規則の一部を改正する規則について 日程第５　その他
１月定例会　（令和８年１月 21 日開催） 日程第１　11 月定例会会議録の承認について 日程第２　教育長報告事項について 日程第３　議案第１号　議案（逗子市職員の旅費に関する条例等の一部改正について）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について 日程第４　その他
２月定例会　（令和８年２月 24 日開催） 日程第１　12 月定例会会議録の承認について 日程第２　教育長報告事項について 日程第３　報告第１号　議案（令和７年度逗子市一般会計補正予算（第９号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について 日程第４　報告第２号　議案（令和８年度逗子市一般会計予算）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について 日程第５　議案第２号　逗子市社会教育委員の委嘱について 日程第６　議案第３号　逗子市文化財保護委員会委員の任命について

日程第７　その他
３月定例会　（令和8年3月25日開催） 日程第１　１月定例会会議録の承認について 日程第２　教育長報告事項について 日程第３　報告第３号　県費負担教職員の任免内申について【非公開】 日程第４　議案第４号　逗子市教育委員会事務分掌規則の一部改正について 日程第５　議案第５号　事務の委任及び補助執行について 日程第６　議案第６号　逗子市立学校の教員の業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について 日程第７　その他

４　教育委員　主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
４月	定例会（4/17）	・勉強会（4/17 年間日程・内容確認について）
５月	定例会（5/28）	・勉強会（5/28 子どもの居場所・親の居場所を支える地域の力の在り方その活用について） ・小学校運動会（5/24　逗子小学校） ・学校訪問（5/27　逗子中学校） （5/29　逗子小学校）

6月	定例会（6/25）	・勉強会（6/25　架け橋期の連携プログラムの課題と今後の方向性について） ・視察（6/25　池子遺跡群資料館） ・小学校運動会（6/1　沼間・久木・池子小学校） ・中学校体育祭（6/5　沼間中学校） （6/7　逗子中学校） （6/13　久木中学校） ・学校訪問（6/2　久木中学校） （6/3　小坪小学校） （6/5　沼間小学校） （6/23　久木小学校） （6/24　池子小学校） （6/26　沼間中学校）
7月	定例会（7/17）	・勉強会（7/17　全国学力・学習調査結果の活用について（CBT調査の実施状況等）／逗子市の部活動地域展開の方向性について）
8月	定例会（8/7）	・勉強会（8/7　全国学力学習状況調査結果の概要（速報）と各学校における今後の分析活用について）
9月	定例会（9/18）	・勉強会（9/18　総合教育会議に向けて）

１０月	定例会（10/22） 第1回総合教育会議（10/22）	・勉強会（総合教育会議後の振り返り（課題及び取り組むべき内容共有） ・小学校運動会（10/28　小坪小学校） ・学校訪問（10/27　沼間中学校） ・第１回総合教育会議（10/22　令和8年度予算編成について）
１１月	定例会（11/26）	・勉強会（11/26　逗子市立学校適正規模・適正配置に向けた今後の方向性について） ・学校訪問（11/11　逗子中学校） （11/20　沼間小学校）
１２月	定例会（12/17）	・勉強会（12/17　不登校・居場所づくりの現状と今後の課題について／コミュニティ・スクール進捗状況について） ・学校訪問（12/2　久木中学校）
１月	定例会（1/21）	・勉強会（1/21　居場所づくりの進捗状況について／神奈川県及び逗子市児童生徒問題行動調査結果について） ・学校訪問（1/15　小坪小学校） （1/20　池子小学校） （1/26　逗子小学校） ・市内一周駅伝競走大会（1/11） ・二十歳を祝うずしの集い（1/12）

2月	定例会（2/24）	・勉強会（2/24　不登校の現状と対策について） ・学校訪問（2/3　久木小学校） ・児童生徒表彰（2/28）
3月	定例会（3/25）	・勉強会（3/25　今年度を振り返って・次年度へ向けた取組確認） ・逗子市スポーツ人の集い（3/7） ・中学校卒業式（3/11） ・小学校卒業式（3/19）

○ 点 検 ・ 評 価

取り組みの方向		具体的施策		重要業績評価指標（KPI）令和11年度	担当課
1	子どもも大人も共につながり成長していく生涯学習のまち	1	学習機会の提供による社会教育の推進	講座事業において、各分野（現代的課題、地域課題、家庭教育）３講座以上実施され、受講生の満足度が５段階評価のうち４以上が90%を超えている。	社会教育課
2	文化を新たに創造するまち	1	文化芸術活動の推進（継承と創出）	逗子アートフェスティバルの参加企画数が30企画になっている。	文化スポーツ課
3	スポーツを楽しむまち	1	スポーツの推進	成人の週１回以上のスポーツ実施率が70%以上になっている。	文化スポーツ課
4	学校教育の充実したまち	1	教員の指導力及び教育課題への対応力向上	児童・生徒を対象にしている「学校生活アンケート」に「授業がよくわかる」「学校が楽しい」の項目を設け、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答が80%以上になっている。	学校教育課（療育教育総合センター）
		2	子どもの発達段階に応じた継続的な支援	療育教育総合センターを18歳までに一度でも利用したことのある市内の子どもの割合が18.9%になっている。	療育教育総合センター
		3	ICTを活用した授業と情報教育の推進	「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の「教員のICT活用指導力等の実態の項目」のうち「授業にICTを活用して指導する能力」「情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力」の「できる」「ややできる」の回答が80%以上になっている。	学校教育課（療育教育総合センター）
		4	地域教育力の効果的な活用と幼・保・小・中の相互理解の促進	地域講師を活用した授業を各小・中学校で年３回実施する。	学校教育課（療育教育総合センター）
5	ふるさとの遺産をまもりつないでいくまち	1	文化財保護の推進	市指定文化財の数が24件に増加している。	社会教育課
6	誰もが心豊かに子育て・子育ちできるまち	1	妊娠前からの子育ての相談・支援の充実	保健師及び助産師が、乳児がいるすべての家庭を訪問し、相談に応じている。	子育て支援課
		2	子育てを支える取り組みの推進	ファミリー・サポート・センターに登録している支援会員（両方会員を含む）の登録人数が550人になっている。	子育て支援課
		3	幅広い保育ニーズに対応できる体制づくり	保育所等入所待機児童が０人になっている。	保育課
		4	子どもたちの居場所づくりの推進	体験学習施設「スマイル」の主催講座の延べ参加者数が2,000人/年になっている。	子育て支援課

１ 子どもも大人も共につながり成長していく生涯学習のまち

（基本構想の取り組みの方向）

市民の誰もが、人生のどの場面でも、いきいきと学びを楽しめるよう、現代的課題や地域課題について、共に学び、個を高め合う社会教育の機会を広く市民に提供するとともに、市民の自主的な学びを支援します。

そして、学ぶ楽しみ教える喜びで地域の一人ひとりがいきいきと輝いているまち、学んだ成果を生かすことで元気な地域づくりへとつなげていくまち、生涯学習のまち逗子をめざします。

－　逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋　－

評価シート　1-1

令和７年度の点検・評価

【担当課：社会教育課】

具体的施策								
学習機会の提供による社会教育の推進								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
講座事業において、各分野（現代的課題、地域課題、家庭教育）３講座以上実施され、受講生の満足度が５段階評価のうち４以上が90%を超えている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		各分野３講座以上実施。満足度90%以上	各分野３講座以上実施。満足度90%以上	各分野３講座以上実施。満足度90%以上	各分野３講座以上実施。満足度90%以上	各分野３講座以上実施。満足度90%以上	各分野３講座以上実施。満足度90%以上	各分野３講座以上実施。満足度90%以上
実績	各分野３講座以上実施。満足度90.5%	各分野３講座以上実施。満足度90.06%	各分野３講座以上実施。満足度81.23%	各分野３講座以上実施。満足度91.39%				
具体的施策を構成する主な取り組み								
① 各種講座事業の推進 ② 家庭教育推進事業の充実 ③ 読書活動の推進 ④ 子どもの読書活動の推進								

自己評価（工夫している点、課題等）	① 現代的な課題や地域課題の解決に資する人材育成に向けて、「学校づくりと地域づくりの困難と希望」講座では、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進」に向け、社会教育委員自らが講師となり、教職員、地域住民、保護者、生徒を対象として、学校運営協議会設置校を会場に、地域と学校をつなぐきっかけづくりに向け、参加型の講座を実施した。 開催場所を学校にしたことで、子育てが落ち着いた方や地域活動の中核にいる高齢者など、普段学校に来る機会の少ない大人たちが久しぶりに学校に来る機会となり、様々な立場の参加者同士が地域づくりについて話す出会いの場となった。

評価シート　1-1

	また、「みんなで遊ぼう逗子トリビアクイズワークショップ」講座では、子ども、子育て中の現役世代、高齢者世代、近年逗子へ移住してきた市民、古くから逗子に住む市民がチームを作り、逗子にまつわるクイズを相談しながら解き、スコアを競い合う講座を実施した。メンバー同士で知識や経験を共有し、クイズの設問を作るというスタイルも盛り込んだ。 　普段交流の無い世代、居住地域が異なる市民が集まり、「逗子を題材にしたクイズ大会」に参加することで、逗子に関する見識を深め、郷土アイデンティティを高めながら、世代間交流・地域間交流の促進を図ることができた。
外部有識者の意見	社会教育委員が、実際に講座の企画や講師として関わっていくという動きを評価したい。 　トリビアクイズワークショップは、「逗子のことを知り、100%楽しもう」というコンセプトの企画であり、アンケート結果からも参加者が十分楽しめたことが伝わった。これを機会に逗子の他のシーンでも使えるコンテンツ制作のワークショップをやってもいいのではないか。 　親子・家庭教育というテーマで連続講座を実施すると、参加者の満足度が非常に高いため、こうした講座は継続して開催してほしい。社会教育としては、子育て世代以外に、アカデミックなものであれば興味があるという層が、ジェンダーや年齢を超えて集まってくることに価値がある。 　グループワーク等で参加者の会話を録音し、その中からどういう視点があったのかを分析して、ニーズや関心を拾い、次年度の講座の内容に反映・導入するようなことがあると、参加者のニーズに沿った内容になっていく。 　学校を会場に地域と学校の大人同士を繋ぐ講座は、新しい試みであり、普段、社会教育講座に参加していない方が多く参加したことが特徴的である。「地域にとって学校がどう見えるのか」、「学校から見て地域がどう見えるのか」というギャップを含め、そこを、どう繋ぐのかというところが大切であり、単発で終わらせずに、継続的に仕掛けていくことが重要である。

評価シート　1-1

今後の取り組みの方向性	今後も地域全体で子育てができる環境整備や人材育成に向けて、社会教育委員の専門性を積極的に活用し、充実した学習機会の提供に努める。 また、従来の「単発の講座型事業」から「継続的な活動や地域課題解決につなげる事業」へステップアップするための企画の考え方や具体的な手法を検討する。 引き続きと学校教育と連携し、児童・生徒や教職員と市民が合同で参加する講座を企画することで、社会教育による「学び」を通じて、人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、学校と地域が協力し合える関係としての土壌を耕して、持続的な地域コミュニティの基盤の形成に繋げてく。

評価シート　1-1

令和７年度の主な取り組み内容

<table>
<tr><td>取り組み①</td><td>各種講座事業の推進</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td>社会教育課</td></tr>
<tr><td>関係する
事業名</td><td>【A】各種講座事業
【B】社会教育出張講座事業</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>目的：【A】市の施策に係る重点課題をはじめ、様々な学習機会の提供を通じ、知識の習得をしていくとともに、地域貢献に資する人材育成を目指す。
【B】地域住民の学習要求に応え、学習機会を提供し、地域活動や市民の学習活動のきっかけづくりを行う。
手段：【A】現代的課題、地域課題に関する講座を実施する。
【B】コミュニティセンター（小坪・沼間）を会場として、健康・衛生、趣味・教養等に関する講座を実施する。
実績：
【A】
・現代的課題に関する講座
関係機関と連携し、市の政策に係る重点課題や現代的課題に関する講座を実施した。
① 学校づくりと地域づくりの困難と希望
② みんなで遊ぼう逗子トリビアクイズワークショップ
③ 世界遺産と文化財
<table>
<tr><td></td><td>出席者数</td><td>ｱﾝｹｰﾄ回収率</td><td>点数記載率</td><td>平均点</td></tr>
<tr><td>①</td><td>23名</td><td>87%</td><td>65%</td><td>81点</td></tr>
<tr><td>②</td><td>18名</td><td>100%</td><td>88.9%</td><td>99点</td></tr>
<tr><td>③</td><td>19名</td><td>100%</td><td>63.2%</td><td>77.9点</td></tr>
</table>
・逗子の歴史、文化財、地域資源に関する講座
地域に対する知識と理解を深めることで地域づくりに繋がる人づくりに向けた動機づけとすべく、郷土の自然と歴史、文化遺産を学習する機会を提供し、市民の自主的な学習活動や地域活動のきっかけづくりとした。
④ 歴史散歩「小坪」・身近に中世を体感できる素敵な地</td></tr>
</table>

域
⑤ 高井鴻山を通して幕末日本を概観するー蔦屋重三郎から小栗忠順へー
⑥ 郷土史研究報告会　明治天皇・皇后による横須賀造船所の行幸啓と逗子ー日本赤十字との関係からー

	出席者数	ｱﾝｹｰﾄ回収率	点数記載率	平均点
④	31 名	67.7%	73.9%	90.6 点
⑤	23 名	96%	77.3%	83.9 点
⑥	11 名	100%	54.5%	96.7 点

・夏休み親子料理教室（全２回）
① 小坪の漁師さんに教わろう！魚のさばき方
② おうちごはん、一緒に作っていただきます！

	出席者数	ｱﾝｹｰﾄ回収率	点数記載率	平均点
①	13名	100%	83.3%	98点
②	16名	86%	100%	100点

・サードエイジ連続講座（第 11 期）
　逗子の魅力を楽しく学び、友人・仲間を見つけ学んだ知識を地域社会へ活かすことを目的として、NPO法人逗子まちなかアカデミーとの協働により実施した。
第１回：仏法と木のぬくもりを感じま専科
第２回：「なぜか逗子移住！」を聞いてみま専科
第３回：「小坪」の今昔を語り合いま専科
第４回：その文学作品には、どんな逗子が？探ってみま専科

	出席者数	ｱﾝｹｰﾄ回収率	点数記載率	平均点
第１ 回	22 名	91%	75%	89.7 点
第２ 回	14 名	100%	85.7%	90 点
第３ 回	22 名	81.8%	72.2%	92.8 点
第４ 回	24 名	66.67%	61.5%	68.8 点

【B】
・社会教育出張講座
　地域の人々が気軽に集い地域に親しむきっかけづくり

	となるような講座を、前年度と同程度開催した。引き続き、市民のニーズを踏まえて適切な講座の開催に努める。 ①「フラダンス体験教室」 出席者数 46 人（3 回小坪） ②「現代詩と現代俳句」出席者数 20 人（2回沼間） ③「大人のやさしいえんぴつ画教室」 出席者数 11 人（2回小坪） ④「ボディコンディショニング体験教室」 出席者数 42 人（2 回小坪） ⑤「ピラティス体験教室」 出席者数 27 人（2 回沼間） ⑥「初心者向けスマホで講座」出席者数８人（1 回沼間） ⑦「小学生ウクレレ体験教室」出席者数 10 人（3 回小坪） ⑧「自宅でできる筋力トレーニング教室」 出席者数 27 人（2 回沼間） ⑨「遺言・相続・成年後見の基礎講座」出席者数 18 人（1 回沼間）

取り組み②	家庭教育推進事業の充実
担当課	社会教育課
関係する事業名	家庭教育推進事業
実施内容	目的：家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。 手段：関係所管と連携しながら、家庭や地域の教育力向上に資する講座を開催するほか、子どもの居場所づくりに係る具体的取り組みを検討する。 実績：次の１講座（全３回）を開催 ① ペアレントプログラム体験講座 子育て中の保護者が講座に参加しやすい環境づくりの一環として、体験学習施設で開催した。

	出席者数	ｱﾝｹｰﾄ回収率	点数記載率	平均点
①	16名	100%	87.5%	81.0点
②	18名	94.0%	62.5%	90.0点
③	20名	89.0%	76.5%	94.0点

評価シート　1-1

<table>
<tr><td>取り組み③</td><td>読書活動の推進</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td>図書館</td></tr>
<tr><td>関係する
事業名</td><td>図書館活動事業</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>
目的：読書普及のための図書館活動を積極的に展開し、利用者が読書に親しむ機会の提供とレファレンスサービス（調べもの相談）の充実など図書館利用の促進を図る。
手段：展示やイベントを継続的に行い、それらについてSNS 等を通じ積極的に情報発信する。
実績：
来館者数　R7　340,722 人
R6　357,736 人
登録者数　R7　39,222 人　（新規 2,446 人）
R6　39,784 人　（新規 2,596 人）
貸出状況
●貸出者数
<table>
<tr><td></td><td>R7 年度</td><td>R6 年度</td><td>比較</td></tr>
<tr><td>図書館</td><td>150,531</td><td>159,084</td><td>△8,553</td></tr>
<tr><td>小坪分室</td><td>15,399</td><td>15,507</td><td>△108</td></tr>
<tr><td>沼間分室</td><td>9,330</td><td>10,151</td><td>△821</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>175,260</td><td>184,742</td><td>△9,482</td></tr>
</table>
●貸出点数
<table>
<tr><td></td><td>R7 年度</td><td>R6 年度</td><td>比較</td></tr>
<tr><td>図書館</td><td>317,554</td><td>340,516</td><td>△22,962</td></tr>
<tr><td>小坪分室</td><td>30,637</td><td>30,775</td><td>△138</td></tr>
<tr><td>沼間分室</td><td>19,548</td><td>21,462</td><td>△1,914</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>367,739</td><td>392,753</td><td>△25,014</td></tr>
</table>
展　　示
図書館　64 回　小坪分室　24 回　沼間分室 24 回
</td></tr>
</table>

評価シート　1-1

	合　計　112 回　（昨年度 135 回） イベント ●高齢者サービス講座 ・「いきいき美容教室　お手入れからメイクまで」 参加者１５名 ・「いきいきアート教室　和紙で貼り絵を楽しみましょう」　参加者１０名 ・「行政書士に聞く　空き家対策」参加者１０名 ●「ビブリオバトル」 発表者(バトラー)によるお薦め本の紹介。 参加者： R7　発表者(バトラー)6 名　観覧者 24 名 R6　発表者(バトラー)9 名　観覧者 35 名 ※観覧者は全員の発表の観覧が必要 ※R7 年度は、会場を図書館内のおはなしコーナーに戻し開催。（R6 年度のビブリオバトルは市制 70 周年記念事業として、文化プラザさざなみホールで実施。） 【所管意見】 来館者数・貸出者数・貸出点数などの主要指標は減少傾向にあり、利用促進の面での課題に対応するため、読書活動の活性化に向けた取り組みが引き続き必要であると考える。 展示回数が減少した背景として、追悼展示や臨時展示の件数が総じて少なかったことが挙げられる。 また、従来行っていた展示の中で、その展示場所を別の要件に使用したため、未実施となったことも影響している。 読書活動の推進に向け、展示・イベント・情報発信を継続的に実施しているが、今後も SNS 等を活用し、来館を促すような魅力ある図書館の情報発信に努めていく。

取り組み④	子どもの読書活動の推進

評価シート　1-1

<table>
<tr><td>担当課</td><td>図書館</td></tr>
<tr><td>関係する
事業名</td><td>図書館活動事業</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>目的：子どもが本に出会うための環境づくりや、子どもが読書に親しむための機会の提供を行うことにより、子どもの読書活動の推進を図る。
手段：展示、おはなし会、イベントを継続的に行い、それらについてSNS等を通じ積極的に情報発信する。
実績：
児童展示
図書館　26回　小坪分室　12回　沼間分室　12回
合　計　50回　（昨年度53回）
＊取り組み③の展示実績から児童部分のみ抜粋。
おはなし会
① 開催回数（昨年度50回）
図書館 49回　沼間分室　2回　合　計51回
② 参加人数
<table>
<tr><td></td><td></td><td>R7年度</td><td>R6年度</td><td>比較</td></tr>
<tr><td rowspan="2">図書館</td><td>子ども</td><td>581</td><td>541</td><td>40</td></tr>
<tr><td>大人</td><td>345</td><td>274</td><td>71</td></tr>
<tr><td rowspan="2">沼間分室</td><td>子ども</td><td>2</td><td>10</td><td>△8</td></tr>
<tr><td>大人</td><td>2</td><td>8</td><td>△6</td></tr>
</table>
*小坪分室はおはなし会未実施

イベント
図書館探検クイズラリー（7月19日～8月31日実施）
＊図書館の本を使ってクイズに答えるイベント。

関係機関との連携
●子育て支援センターでおはなし会を実施
４回実施　延べ参加者数　子ども53人　大人50人
●中学校訪問読み聞かせ（実施）逗子中学校１年生
●施設見学（実施）池子小学校キッズサポーター図書ボランティア及び池子小学校児童
逗子小学校２年生</td></tr>
</table>

評価シート　1-1

	●職場体験（実施）逗子中学校２年生 ●インターンシップ（実施）横須賀大津高等学校３年生 ●4 ヶ月健診時にファーストブック（絵本の読み聞かせや図書館の事業案内）を実施　実施数 245 人 【所管意見】 本館では、おはなし会の開催日時の変更や学童保育への参加呼びかけを積極的に行った結果、参加者数が増加するという顕著な成果を上げることができた。 また、新型コロナウイルスの影響により休止していたファーストブック事業を令和７年度から再開し、図書館の取り組みを案内できたことも、おはなし会の参加増につながった要因の一つと考えられる。 一方、沼間分室については、おはなし会の参加人数の減少を踏まえ、今後の継続的な実施について検討を図る。

２　文化を新たに創造するまち

（基本構想の取り組みの方向）

文化芸術は、生活に潤いや刺激を与え、共感や連帯を生み、人の心を豊かにします。さらに、新たな付加価値を生み出すなど、地域社会にとっても多様な可能性を秘めています。

わたしたちは、逗子の伝統文化を継承するとともに、潜在的な文化資源を掘り起こして、地域の文化を市民の手で拓き、互いを高め合い、育むことで、「まちが文化を活かし、文化がまちを活かす」地盤をつくります。そして、逗子の多彩な文化資源と恵まれた自然環境を背景に生まれる、個性的で創造的な文化芸術の力で、文化と自然がつむぐ活力あるまち（地域社会）の発展をめざします。

－　逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋　－

評価シート　2-1

令和７年度の点検・評価

【担当課：文化スポーツ課】

具体的施策								
文化芸術活動の推進（継承と創出）								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
逗子アートフェスティバルの参加企画数が30 企画になっている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		26	23	24	28	25	26	30
実績	23	41	25	33				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①逗子アートフェスティバルの充実 ②文化芸術活動の振興に係る事業の推進 ③子どもを対象とした文化活動の振興に係る事業の推進（アウトリーチ活動等）								

自己評価（工夫している点、課題等）	① 逗子アートフェスティバルの充実 ・地域の高校生・大学生との連携、空き家やまちなかの空きスペースの活用、スタンプラリーによる地域の回遊などの工夫により、アートを通じたまちづくりを推進している。 ・子どもや若年層が文化芸術に触れることができ、または自らも発表できる企画を積極的に取り入れ、多世代交流を促進している。 ② 文化芸術活動の振興に係る事業の推進 ・「逗子市文化祭」は、市民に定着しているイベントだが、参加企画数は前年比で減少した。 ・高齢化による会員数減少が課題で、参加団体を若い世代に拡げる等の活性化を図ることが求められる。 ③ 子どもを対象とした文化活動の振興に係る事業の推進（アウトリーチ活動等） ・アート便のメニュー数が昨年度の４メニュー（和太鼓、太神楽、落語、クラシック）にパントマイムを加え５メニューとなり、幅広い選択肢を提供することができた。 ※KPI について 参加企画数実績が 2023 年度で大きく増加しているの

	は、３年に一度開催のトリエンナーレに当たる年のため、市の負担金及び文化庁補助金を活用することで例年より規模を拡大したことによるもの。
外部有識者の意見	①逗子アートフェスティバルの充実について 　地域にゆかりのあるアーティストの企画を中心に、令和６年度より８企画多い 33 企画の参加を得て実施された。逗子アートネットワーク（ZAN）が市内外からの逗子市の文化活動を支援する核となり、公募による自由企画のほか、地域および近隣の高校や大学の学生による展示や運営への参加も得られた。空き家や空き地の活用は、地域文化を推進していく人材の育成という好循環を生むことが期待され、アートを通じたまちづくりの推進が着実に定着しつつあることを評価したい。 ②文化芸術活動の振興に係る事業の推進について 　「逗子市文化祭」が長年にわたり市民文化活動の成果発表や市民の鑑賞の機会として定着していることを評価したい。障がい者の文化芸術活動への積極的な参加が実現されつつあること、また市民のアートリテラシー向上のため、生涯学習と文化振興を連携させる取り組みも着実に行われている。令和６年度は市制 70 周年ということもあってか参加企画は少し増えたが、令和７年度は 12 企画と減少した。背景には会員の高齢化があり、いかに若年世代へ継承を図るかが問われており、様々な団体や世代交流をさらに推進してもらいたい。 ③子どもを対象とした文化活動の振興に係る事業の推進について 　学校教育と連携し芸術に触れる機会を届けるアウトリーチ事業（アート便）や手作り絵本講座、こども落語教室、ホール舞台スタッフ体験講座など多彩な企画のもと、次世代を担う子どもたちの文化創造体験の拡充が継続的に図られていることが評価される。特にアート便では、新たにパントマイムが加わって５メニューとなり選択肢がより多様になったことと、０歳から入場できるコンサートや公

評価シート　2-1

	演等は人間性を育む情操教育への関心を高める企画として注目される。また市民交流センターとの共催による、共に学び共に育つ「共育のまち」の実現に向けた取り組みは、事業実施における連携の観点からも有意義であり、今後の展開が期待される。
今後の取り組みの方向性	① 逗子アートフェスティバルの充実 ・世代層の拡がり、企画者・参加者数の増大を図り、より一層充実した事業への発展を目指すとともに、持続可能な運営体制を図る。 ② 文化芸術活動の振興に係る事業の推進 ・逗子市文化祭参加団体の拡充と会員数増加により、「逗子市文化祭」の更なる活性化を図る。 ③ 子どもを対象とした文化活動の振興に係る事業の推進（アウトリーチ活動等） ・新たな企画を増やすなどし、より一層子どもの文化創造体験の拡充を図る。

評価シート　2-1

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	逗子アートフェスティバルの充実
担当課	文化スポーツ課
関係する事業名	逗子アートフェスティバル（ZAF）2025
実施内容	目的：芸術文化活動による地域の活性化を図る。 手段：アートをハブにしたまちづくりを通して自立した地域コミュニティの形成と、アートによるシティプロモーションをきっかけとした移住促進を目指す。 市民と市の協働により、市内外の有志による組織（逗子アートネットワーク）が企画・運営を担う。 実績： ZAF2025 は、地域にゆかりのあるアーティストの企画を中心に開催した。 ・参加企画数…33 企画（前年：25 企画） ・来場者数　…約 7,700 名（前年：約 7,100 名）

取り組み②	文化芸術活動の振興に係る事業の推進
担当課	文化スポーツ課
関係する事業名	逗子市文化祭 逗子アートフェスティバル 2025（取り組み①に記載） 逗子文化プラザホール自主文化事業（取り組み③に記載）
実施内容	目的：市内文化団体の活動を継続支援することにより、文化芸術活動の振興を図る。 手段：市民文化活動の成果発表や市民の鑑賞の場として定着している逗子市文化祭を通じ、文化活動の裾野拡大に努める。 実績：（前年との比較等） ・参加企画数…12 企画（前年：14 企画）

評価シート　2-1

取り組み③	子どもを対象とした文化活動の振興に係る事業の推進（アウトリーチ活動等）
担当課	文化スポーツ課
関係する事業名	逗子文化プラザホール自主文化事業
実施内容	目的：次代の地域文化の担い手である子どもに対し、文化芸術に触れる機会や文化創造体験の増大を図る。 手段：学校教育との連携や逗子地域の多世代との交流を通じた地域文化体験の他、ホール自主文化事業で創造体験型事業を実施する。 実績：・アート便 【学校教育との連携によるアウトリーチ活動】 …授業数 13 件、参加者 1,126 名 （前年：13 件、1,472 名） ・手作り絵本講座…開催日数４回、参加者７１名 （前年：４回、70 名） ・逗子こども落語教室 …稽古回数３回、発表１回、参加者８名 （前年：開催１回、17 名） ・プロ和太鼓グループ公演 【逗子開成高校和太鼓部と共演】 …事前指導回数６回、来場者 453 名 （前年：６回、401 名） ・ホール舞台スタッフ体験講座 【県立逗子葉山高校生対象】 …ワークショップ１回、参加者 19 名（前年：２回、24 名） ・トモイクフェスティバル 【交流センターとの共催】 …開催日数２日、参加者 3,297 名 （前年：２日、4,006 名） ・０歳からのコンサート【クラシック】 …開催回数１回、入場者 215 名 （前年：１回、165 名【竹楽器】） ・ホール開館 20 周年記念コンサート

評価シート　2-1

	【０歳から入場可】 …開催回数１回、入場者 342 名 ・人形劇【０歳から入場可】 …開催回数１回、入場者 469 名 ・こどもレセ体験 …開催回数１回、参加者９名 ・マリンクラフトデジタルお絵かき体験 …開催回数１日、参加者 66 名

3 スポーツを楽しむまち

（基本構想の取り組みの方向）

わたしたちは、スポーツ都市宣言の理念に基づき、市民一人ひとりがスポーツに親しみ健康な心とからだをつくる「健康づくり」、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり明るい生活を営むことができる「場づくり」、スポーツを通じていきいきとした地域連携の輪をひろげる「交流づくり」、スポーツを通じて活力に満ちたまちづくりを推進する「基盤づくり」を進めます。

一人でも多くの市民が、スポーツに親しみ、互いに高め合うことで、健康で豊かな生活を送ることができるよう、いつでも、どこでも、誰もが気軽にスポーツ、健康づくりができるまちをめざします。

－　逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋　－

評価シート　3-1

令和７年度の点検・評価

【担当課：文化スポーツ課】

具体的施策								
スポーツの推進								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
成人の週１回以上のスポーツ実施率が70%以上になっている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		58%	60%	62%	64%	66%	68%	70%
実績	54.8%	56%	56.7%	56.9%				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①スポーツ活動に係る事業の推進 ②総合型地域スポーツクラブの普及・啓発 ③逗子市スポーツの祭典の開催 ④マリンスポーツ等、海でのレジャー体験の推進による地域ブランディング ⑤子どもを対象としたスポーツ活動に係る事業の推進								

自己評価（工夫している点、課題等）	①スポーツ活動に係る事業の推進 ・指導者養成教室、ジュニアスポーツ教室、地域体育祭、市内一周駅伝競走大会など様々な機会をとらえ、地域での運動・スポーツの推進を図った。 ・スポーツに新たに取り組もうとする人や、スポーツを通じて健康を維持しようとする人に向け、広報ずしや市ホームページ、SNS、市内広報板によるスポーツ実施と健康づくりに関する情報発信を行った。 ②総合型地域スポーツクラブの普及・啓発 ・令和７年度会員登録数は、505 件で前年度より３件増加した。新種目として人気スポーツであるピックルボールを取入れたり、健康体操、バドミントン等人気のあるメニューの開催回数を増やしたりすることで、多くの人が参加できる環境を作り、参加者数及び会員登録者数の増加を目指した。 ・広報ずしや市ホームページ、市内広報板により、総合型地域スポーツクラブの教室等の情報発信を行っているが、

	より広く情報発信ができる仕組みを検討する必要がある。 ③逗子市スポーツの祭典の開催 ・41 種目の企画を実施した。年齢や性別、障がいの有無に関わらずスポーツが楽しめるイベントとして、ボッチャやコーンホールなどの経験がなくても楽しめるスポーツを実施し、子どもから高齢の方まで多くの方に参加いただいた。 ・連携企画としては、未病指標や立位年齢、歩容解析、減塩セミナーなど、未病関連の企画が多く、参加者に好評であった。 ・参加者アンケート中、「スポーツの祭典がスポーツを始める（再開する）きっかけになると思いましたか。」の問いで、「思う」との回答が全体の約７割となり、スポーツの祭典がスポーツをする意欲を喚起し、スポーツをするきっかけづくりに寄与することができた。 ④マリンスポーツ等、海でのレジャー体験の推進による地域ブランディング ・マリンスポーツの推進について、（公財）逗子市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ「うみかぜクラブ」により、逗子ならではの地形を活かした種目、ヨットやウインドサーフィン、海岸を利用したビーチヨガを実施した。 ・逗子市スポーツの祭典 2025 では、同時開催の ZUSHI SAILING　FESTIVAL の会場である逗子海岸でフレスコボールを実施した。 ⑤子どもを対象としたスポーツ活動に係る事業の推進 ・（公財）逗子市スポーツ協会に委託し、８種目のジュニアスポーツ教室を実施した。 ・小学生のためのスポーツ団体一覧を作成し、市立小学校児童に配付、市ホームページの掲載及び公共施設に配架することで、子どものスポーツ推進のきっかけづくりとなっている。 ・子どもと保護者向けのプログラムとして、「子育て応援広場」や「産後ママの姿勢改善」を実施し、子育て世代の方へ身体を動かす機会を提供することができた。

評価シート　3-1

	今後の対応 ・市民の生活の中での運動やスポーツの位置づけは、ライフステージとともに変化することから、スポーツの祭典等のイベントの際のアンケートなどから市民ニーズを的確に把握して、運動する機会、スポーツに触れる機会が増えるよう、種目及び時間帯を工夫し、庁内関係課と施策間の連携を図りながら、イベントや教室等の質、量の充実を図るなど、効果的な事業実施に努めていく。 ・「逗子市スポーツ推進計画」の４つの基本目標〔健康づくり〕、〔場づくり〕、〔交流づくり〕、〔基盤づくり〕を進めていくうえで、市民、地域、スポーツ関係団体、学校等との協働により、それぞれが主体的なスポーツ推進の担い手となって取り組むことができる環境づくりに努めていく。 ・スポーツをするきっかけづくりだけでなく、継続してスポーツを行える機会を提供するとともに、多様な情報発信手段を活用してより広く周知できるよう努めていく。
外部有識者の意見	①スポーツ活動に係る事業の推進 ・逗子アリーナを利用する方は、シセイカルテ分析結果説明や健康相談を実施していることを知っているが、逗子アリーナを利用しない方は実施していることを知る機会がない。 ・高齢者や子どもだけでなく、現役世代へのスポーツの推進も必要だと考える。 ②総合型地域スポーツクラブの普及・啓発 ・総合型地域スポーツクラブうみかぜクラブを逗子アリーナ１カ所で行うことで、逗子市立体育館が逗子市民のスポーツ活動の土台になっていると感じる。 ・メニューに、新しくピックルボールを取入れたことで、新しい参加者を呼び込むきっかけになっている。 ③逗子市スポーツの祭典の開催 ・様々な企画を用意することで、高齢者、障がいを持った方、幼児、親子等様々な方が参加し、市全体のコミュニティーを深める機会となっている。 ・スポーツの祭典は、普段アリーナを利用しない子どもや、親子などが参加しており、アリーナを知っていただく

	良い機会になっている。 ・逗子市出身の活躍しているスポーツ選手を招いた企画を実施することで、より多くの人に興味を持ってもらえると思う。 ・これだけの企画数、参加人数のイベントを実施していることは高く評価できる。また、参加者数が増加している点についても、周知が十分に行き届いており、内容も充実していると評価できる。 ・SNS の発信力は強いと感じるが、アカウント自体が認知されていないことも多いため、アカウントが存在することをどう周知するかが課題である。 ④マリンスポーツ等、海でのレジャー体験の推進による地域ブランディング ・海があるという地域特性を活かせるスポーツなので、継続して欲しい。 ⑤子どもを対象としたスポーツ活動に係る事業の推進 ・ジュニアスポーツ教室に参加した子ども達が、そのスポーツに興味を持ち、継続してもらえるかが重要である。
今後の取り組みの方向性	①スポーツ活動に係る事業の推進 ・逗子アリーナを利用しない方にも、シセイカルテ分析結果説明や健康相談を実施していることを周知する方法を検討する必要がある。 ・現役世代が参加できる日時にイベントや教室を実施する際の、指導者確保の方法を検討する必要がある。 ②総合型地域スポーツクラブの普及・啓発 ピックルボールのように、新しい参加者を呼び込めるよう様々なスポーツの教室を実施すべきである。 ③逗子市スポーツの祭典の開催 ・企画によって、参加する世代が変化するため、様々な企画を実施し、より多くの世代が参加できるイベントにすること。 ・令和６年度のアンケート結果と令和７年度のアンケートを比べると「逗子市スポーツの祭典を何で知りました

	か。」の問いで、「SNS」と回答した方が増えている。若い世代は SNS を通じて情報を得ているため、SNS を活用し、若い世代の集客にも積極的に務める事こと。 ④マリンスポーツ等、海でのレジャー体験の推進による地域ブランディング ・近年は災害が多く、令和７年度は津波警報も発令されている。海で実施する際は、最善の注意を図りながら、実施すること。 ⑤子どもを対象としたスポーツ活動に係る事業の推進 ・逗子市スポーツ協会が実施しているジュニアスポーツ教室をきっかけに、総合型地域スポーツクラブうみかぜクラブのジュニア教室に通ってもらう等、継続的にスポーツができるよう検討すること。

評価シート　3-1

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	スポーツ活動に係る事業の推進
担当課	文化スポーツ課
関係する事業名	スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）
実施内容	目的：市民のスポーツによる健康づくりのための支援体制を構築する。 手段：スポーツによる健康づくりのための相談及び相談機会の情報提供を行う。また、スポーツ・健康づくりの教室、指導者等の情報収集及び運用方法等を検討する。 実績： 〇逗子アリーナ未病センターにて、(公財)逗子市スポーツ協会によるスポーツ健康相談等を実施した。 健康相談　37回、相談者114人 （前年度　45回、相談者　139人） シセイカルテ分析結果説明　48回　参加者　174人 （前年度　13回、相談者　54人） 昨年度シセイカルテ分析結果説明の評判が高かったため、回数を増やした。 〇(公財)逗子市スポーツ協会が市役所未病センターと連携し、スポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知に努めた。 〇第73回逗子市内一周駅伝競走大会を開催した。 実施日　2026年１月11日（日） 地域対抗の部　10チーム参加 団体対抗の部　34チーム参加 〇地域体育祭を実施した。 桜山　実施日：９月28日（日）　参加者：230人 小坪　実施日：９月28日（日）　参加者：650人 久木　実施日：10月19日（日）　参加者：300人 東逗子　実施日：10月５日（日）　参加者：1,174人 逗子　実施日：10月18日（土）　参加者：230人 池子　実施日：10月11日（土）　参加者：410人 新宿　実施日：10月19日（日）参加者：150人 山の根　実施日：９月20日（土）　参加者：150人

評価シート　3-1

<table>
<tr><td>取り組み②</td><td>総合型地域スポーツクラブの普及・啓発</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td>文化スポーツ課</td></tr>
<tr><td>関係する
事業名</td><td>逗子市スポーツ協会の自主事業</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>目的：生涯にわたって、誰もが気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与する。
手段：（公財）逗子市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ「うみかぜクラブ」との協議により高齢者向けスポーツのプログラムを含む各種教室を実施する。
実績：
〇うみかぜクラブの会員登録数及び参加者数を増やすため、実施メニューを精査し、人気のあるメニューの開催回数を増やした。
・全メニュー数 16 件（前年度 19 件）
・延べ開催回数 798 回（前年度 782 回）
・延べ参加者数 22,091 人（前年度 21,504 人）
〇うみかぜクラブ会員登録件数
<table>
<tr><td>年度</td><td>R5</td><td>R６</td><td>R７</td></tr>
<tr><td>件数</td><td>492 件
（541 人）</td><td>502 件
（550 人）</td><td>505 件
（548 人）</td></tr>
</table>
〇人気メニュー
・健康体操
延べ参加人数　2,497 人（前年度 2,526 人）
・健康筆習い（習字）
延べ参加人数　895 人（前年度 791 人）
・シェイプアップ体操
延べ参加人数　1885 人（前年度 1,940 人）
・ピックルボール
延べ参加人数　254 人（新種目）
近年注目されているピックルボールをメニューに追加。
大変人気が高く、非会員の参加も多い。
〇高齢者向けの体力アップ体操・シニアヨガを引き続き開催した。
・高齢者体力アップ体操</td></tr>
</table>

	延べ参加人数　1,327 人（前年度 1,385 人） ・シニアヨガ 延べ参加人数　1,381 人（前年度 1,696 人） 〇広報ずしや市ホームページ、市内広報板により、総合型地域スポーツクラブの教室等の情報発信を行った。

取り組み③	逗子市スポーツの祭典の開催
担当課	文化スポーツ課
関係する事業名	スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）
実施内容	目的：市民が生涯にわたって、生活の一部にスポーツを取り入れ、スポーツを楽しんでいくために、子どもから高齢者まで、すべての市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供し、継続的にスポーツをするためのきっかけづくりとする。 手段：逗子市スポーツの祭典実行委員会が主催し、（公財）逗子市スポーツ協会をはじめ市内スポーツ関連団体等と協働して、逗子市スポーツの祭典を開催する。 実績： 〇逗子市スポーツの祭典2025を開催 開催日時：６月１日（日） 開催場所：逗子アリーナ、第一運動公園、 体験学習施設　スマイル 参加者：3,586 人（前年度 2,574 人） イベント数：41 種目 （前年度：41 種目） 新企画である「みんなでダンス」により、親子、ご家族の参加が増えたことで、参加者数も増加したと考える。

取り組み④	マリンスポーツ等、海でのレジャー体験の推進による地域ブランディング
担当課	文化スポーツ課
関係する事業名	スポーツ推進事業

評価シート　3-1

実施内容	目的：豊かな自然を活用して、マリンスポーツ教室や、新たなアウトドアスポーツを企画・実施し、アウトドアスポーツによる集客を促進する。 手段：（公財）逗子市スポーツ協会に委託し、マリンスポーツの教室を実施する。 実績： 〇スポーツ協会実施のスポーツ教室や総合型地域スポーツクラブ「うみかぜクラブ」でヨット、ビーチヨガを実施。 ・参加者 ヨット 13 人（前年度 12 人） ビーチヨガ 133 人（前年度 91 人） 〇ジュニアスポーツ教室で、ヨット及びウインドサーフィンを実施。 ・ヨット 実施日：９月６日（土） 参加人数：13 人（前年度 19 人） ・ウインドサーフィン 実施日：８月５日～７日 参加人数：延 48 人（前年度延 71 人） 暑さの影響か、午後に開催される教室の参加人数が減ってしまった。 〇逗子市スポーツの祭典 2025 では、同時開催の ZUSHI SAILING　FESTIVAL の会場である逗子海岸でフレスコボールを実施した。 〇マリンスポーツ等の大会開催への後援を行った。

取り組み⑤	子どもを対象としたスポーツ活動に係る事業の推進
担当課	文化スポーツ課
関係する事業名	スポーツ推進事業
実施内容	目的：スポーツを習慣化させるには、子どもの頃からスポーツを楽しむことが重要であることを踏まえ、多様なスポーツができる環境づくりを促進する。 手段：（公財）逗子市スポーツ協会に委託し、ジュニアスポーツ教室等を実施する。

評価シート　3-1

	実績：（前年との比較等） 〇ジュニアスポーツ教室（主に小学生が対象）を８種目で実施。 ・参加者 レスリング 15 人（前年度 13 人） 卓球７人（前年度 7 人） 陸上 32 人（前年度 20 人） 水泳 106 人（前年度 113 人） ヨット 13 人（前年度 19 人） ウインドサーフィン延 48 人（前年度延 71 人） バドミントン 30 人（前年度 22 人） テニス 20 人（前年度 14 人） 〇子どもと保護者のスポーツをする機会の提供として、子育て応援広場（22 回・248 人）、産後ママの姿勢改善（１回・０ 人）、タッチケアーベビーマッサージ教室（１回・10 人）等を実施した。 〇小学生のためのスポーツ団体一覧を作成し、市立小学校児童に配付、市ホームページに掲載、公共施設に配架するなど周知を図った。

４ 学校教育の充実したまち

（基本構想の取り組みの方向）

人は自然と社会の中で生涯学び続けていくことが必要です。その入り口の一つとして学校教育は大きな役割を果たすものです。今日、価値観の多様化や高度な情報化社会の中にあって、子どもたちが身につけなければならない力は多岐にわたっています。これまで受け継がれてきた知識や文化・伝統などを踏まえ、地域社会や家庭と連携し、互いの個性を尊重し合う人間性溢れる教育、限りある命を生きていることの素晴らしさを感じることができる教育を行っていくこと、そしてこれからの国際社会の一員として生きていく力を育むことが必要です。

いつの時代にも変わってはならない本質の部分を土台に、その時々の教育的課題に臨機応変に対応して、「豊かな人間性」・「確かな学力」・「健康な心身」を目標として『自ら考え、心豊かに、たくましく生きる逗子の子ども』の育成を図ります。

－　逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋　－

評価シート　4-1

令和７年度の点検・評価

【担当課：学校教育課・療育教育総合センター】

具体的施策
教員の指導力及び教育課題への対応力向上
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】
児童・生徒を対象に実施している「学校生活アンケート」に①「授業がよくわかる」②「学校が楽しい」の項目を設け、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答が両項目80%以上になっている。

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		50%	50%	80%	80%	80%	80%	80%
実績		①85% ②85%	①88% ②91%	①87% ②89%				

具体的施策を構成する主な取り組み
① 教員の授業力・学級経営力・児童生徒指導力向上重点事業の推進 ② 教育指導教員の派遣 ③ 授業研究校の委託（授業研究の充実） ④ 研修の充実 ⑤ 各担当者会の充実 ⑥ 学校給食の安定的な提供 ⑦ 学校施設の整備・充実

自己評価（工夫している点、課題等）	学校は、すべての子どもにとって学校に居心地の良い居場所があり、授業が楽しいと思える時間となるよう学校環境と授業における「居場所づくり」に努めてきている。アンケート調査については、数値が少し下がったものの、８割以上の子どもが肯定的な評価をしていることで、取組みの方向性は間違っていないことと考えている。引き続き「居場所づくり」で止まらず、「絆づくり」へと発展させ、学校教育の精度を高めていく。 教育委員会としては、校内研究の在り方を変え、各学校が自校の課題に基づくテーマで取り組めるようにし、ＯＪＴによる学校力の向上が図れるよう伴走型の関わりをこれまで以上に意識した。教育指導教員は、教員の指導に注力してもらうこととし、ＯＪＴとのバランスを取りながら教員の指導力向上にあたった。 また、巡回チームを各学校に派遣し、経験の浅い教員を中心に授業を参観し、その都度指導助言を行った。経験年数によらず、指導助言を必要とする教員もいるため、充分な指導助言ができない状況がある。 不登校施策としては、全小中学校の校内支援教室への専任指導員の配置により不登校対策の強化を図れた。子どもや保護者及び学校教職員からの肯定的な声も多い。

評価シート　4-1

	一方、昨年度同様、市内で一定数存在するどこともつながれていない子どもたちへの対応が今後の課題である。
外部有識者の意見	重要業績評価指標について①②ともに９割近い肯定的回答を得たことは評価出来る。ただ、自己評価にもあるように「居場所づくり」から「絆づくり」へと発展させる意図があるのならば、児童・生徒への質問項目として「友だち・仲間に対する意識」も加えるべきかと思う。 また、教員の指導力向上が一朝一夕に進まないことは致し方ないことで、OJT や校内研究・研修、市としてのテーマ設定等々、様々なアプローチから継続・強化していくことを期待する。 最後に、「個別の教育的ニーズ」に対する支援を充実させるため、逗子市が多くの財政的支援・人的配置を行っていることに敬意を表したい。
今後の取り組みの方向性	数値の高さに過信することなく、すべての教員が、実践、自己点検、改善のサイクルを丁寧に回し授業力の向上を地道に進めていけるよう促していく。教員研修の見直しに着手し、「より主体的に学びに向かう教員」を目指していく。 また、学校教育全体を通して子どもの集団の質を上げていくことを意識し、発達支持的生徒指導の視点で学級づくり、学年づくり、学校づくりに力を入れていく。 不登校対策としては、新たな不登校を生まない未然防止の取組みの強化を図るとともに、どこともつながれていない子どもへの対応について検討を始めたい。

評価シート　4-1

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	教員の授業力・学級経営力・児童生徒指導力向上重点事業の推進
担当課	学校教育課・療育教育総合センター
関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童生徒指導力向上重点事業 支援教育充実事業
実施内容	目的：教職員の資質向上、学校教育諸活動の充実、学校教育の活性化を図る。 手段：授業と学級経営に係る自己チェックリストの活用。支援教育推進巡回チームや教育指導教員による指導・助言。 実績： チェックリストは作成から 10 年が経過したので、内容の見直しを行った。新しく作成したチェックリストはグループウエア（SharePoint）のキャビネットや学校教育 Basebook に掲載し、手軽に自己点検と改善に活用できるようにしている。また、支援教育推進巡回チームおよび教育指導教員による指導では、チェックリストの活用をさらに強化し、個別支援・集団指導の両面から指導・助言を行った。個別支援については、保護者や学習支援員からの指導・助言依頼も多く寄せられている。そのため、管理職・コーディネーター・特別支援学級担当者と合同で学習支援員の研修を実施し、学校が自律的に取組める体制づくりを推進した。

取り組み②	教育指導教員の派遣
担当課	学校教育課
関係する事業名	少人数指導教員・教育指導教員派遣事業
実施内容	目的：教員の資質向上及び指導力向上 手段：教育指導教員の各学校への派遣。 実績： 令和７年度：小 2744 時間、中 1197 時間指導を実施 令和６年度：小 378 時間、中 712 時間指導を実施

取り組み③	授業研究校の委託（授業研究の充実）

評価シート　4-1

担当課	学校教育課
関係する事業名	学校教育・調査研究事業
実施内容	目的：教職員の資質向上、学校教育諸活動の充実、学校教育の活性化を図る。 手段：講師を招聘し課題に沿った研修を企画実施する。 実績： 令和７年度実績：令和６年度同様全８校に委託し、各学校が適切に研究を行った。各学校の実態に合わせてテーマを設定し、主体的な研究活動を行い、指導力向上につなげた。

取り組み④	研修の充実
担当課	学校教育課・療育教育総合センター
関係する事業名	学校教育調査・研究事業
実施内容	目的：教職員の資質向上、学校教育諸活動の充実、学校教育の活性化を図る。 手段：県が示す３つの期に対応した研修の実施 講師を招聘し課題に沿った研修を企画実施 実績： 令和７年度実績： 年次研修　経験年数を ５ 段階に分け、開発期に重点を置いて実施 夏季研修　２６講座実施　参加人数 816 名 令和６年度実績： 年次研修　経験年数を５段階に分け実施 夏季研修　25 講座実施　参加人数 1154 名

取り組み⑤	各担当者会の充実
担当課	学校教育課・療育教育総合センター
関係する事業名	支援教育充実事業

評価シート　4-1

実施内容	目的：教職員の資質向上、学校教育諸活動の充実、学校教育の活性化を図る。 手段：学校課題に応じた担当者会を行い、相互の情報交換や課題解決に向けた検討や研修を行う。 実績： 　中学校区や同じ学校課題を持つ担当者同士で課題共有し、解決のための協議や検討を行った。指導主事から国や県の動向を伝達したりすることで、よりよい教育活動の推進につなげた。担当者の前年度の振り返りを活かした研修会や協議の場を学校課題に合わせて設けることで、組織的な取り組みに近づけられた。 令和７年度実績：担当者会　９種類実施 令和６年度実績：担当者会　８種類実施

取り組み⑥	学校給食の安定的な提供
担当課	学校教育課
関係する事業名	小学校給食運営事業 中学校給食運営事業
実施内容	目的：学校給食法に示された、学校給食の目的と目標を実現、達成し、安定的な学校給食の提供を行う。 手段：（小学校給食）委託（４校）と直営（１校）を併用した自校方式による給食の提供、各校の給食室の適切な維持管理 （中学校給食）委託業者の所有する外部調理場で調理された食缶方式による給食の提供 実績： （小学校給食） 令和７年度：149,052,370円 令和６年度：139,050,112円 （中学校給食） 令和７年度：118,695,306円 令和６年度：113,685,793円

取り組み⑦	学校施設の整備・充実
担当課	教育総務課
関係する事業名	学校施設整備事業（小学校） 学校施設整備事業（中学校）

評価シート　4-1

実施内容	目的：市立小中学校における良好な教育環境の整備を図る。 手段：学校からの要望等に基づき、緊急性・優先度を考慮し、建物の老朽化対策ほか、大規模改修工事を施工する。 実績：令和７年度学校施設整備事業費 （小学校）122,958,269円 ・池子小学校高架水槽更新工事　16,581,400円 ・池子小学校Ｂ棟防水改修工事　16,500,000円 ほか （中学校）65,827,806円 ・久木中学校給水設備更新工事　45,072,500円 ・逗子中学校体育館床及びテニスコート改修工事 9,295,000円 ほか

評価シート　4-2

令和７年度の点検・評価

【担当課：療育教育総合センター】

具体的施策								
子どもの発達段階に応じた継続的な支援								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
療育教育総合センターを18 歳までに一度でも利用したことのある市内の子どもの割合が18.9%になっている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		15.4%	16.1%	16.8%	17.5%	18.2%	18.5%	18.9%
実績	14.9%	17.1%	19.5%	21.8%				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①療育教育総合センターの運営（療育推進事業の推進） ②早期発見・早期療育のための相談体制等の充実 ③学校や保護者との連携の推進 ④支援が必要な児童・生徒についての情報共有の充実 ⑤学校教育を支援する専門性の高いスタッフの派遣（校内支援体制を活用した支援教育の推進）								

自己評価（工夫している点、課題等）	①② ・18 歳までに一度でも利用したことのある市内の子どもの割合は、令和７年度末時点で 21.8％となった。「発達障がい」や「療育」についての世間認知度が上がったことによる利用者の増加、及び 18 歳以下人口の大幅な減少により割合が上昇した。 ・市民向け公開講座について、会場及びオンライン配信を併用して開催した。また、利用者との連絡調整や関係機関との円滑な連携を図るため、電話やメール、オンライン等を適宜活用している。 ・SNS(Instagram)を開設し、療育支援に関する情報発信力の強化を行っている。 ③園の懇談会に参加し、就学について話す場を設けてもらっている。未就学の保護者に安心して小学校入学を迎えてもらえるよう話す内容を園長と相談している。また、就学相談に向けた行動観察を実施し、子どもの様子を丁寧に保護者に伝え、よりよい就学を保護者がイメージできるよう工夫している。療育と教育の違いや相互関係を保護者や学

評価シート　4-2

	校に理解してもらうため、手引を作成し丁寧に説明している。 ④巡回チームや教育相談など、関わる支援者がチームとなってケース会議等に積極的に出席し、役割分担をしながらお互いに情報を共有し、支援に生かした。 ⑤巡回チームとして支援教育推進巡回指導員や巡回 SC を派遣し、集団と個の視点からアセスメントを行い、具体的対応について学校への提案等を行っている。教職員との信頼関係を築き、チーム学校を支える体制づくりについて助言を重ねている。学校のニーズは多く、アセスメント等の件数も増えている。巡回チームに頼る傾向が強く、教員全体の支援教育に対する知識・技能の向上であり、学校の自走を伴走することを心掛けている。
外部有識者の意見	①② 小規模自治体ながら、質の高い取組みを行っており評価できる。 幼稚園や保育園、学校との連携や支援者支援についての取組みも高く評価できる。 既存の保護者支援の取組みが、実質的にペアレントプログラムの役割を果たしている。地域の特性を生かし、保護者同士や当センターが、より一層相互に関わっていくことができる支援体制となることを期待する。 ③④⑤ 療育教育総合センターを中核とした「逗子市の支援教育」の取組みが進んでいることを嬉しく思う。 しかし、早い段階からの子どもの特性の発見・支援が大切なことは当然だが、その反面、特別支援学級や通級の希望者が増大し、「インクルーシブ教育」の流れに逆行するような状況も見られる。 通常級における「個別の教育的ニーズ」に対する、適切な支援方法の改善が今後の課題となろう。

評価シート　4-2

今後の取り組みの方向性	①② ・療育支援に関する発信力強化のため、SNS（Instagram）の効果的な運用に取り組む。 ・療育相談員、専門員等による相談体制の充実に努める。 ③支援シートを使いながらの情報共有に努める。また、療育の支援と教育の支援の相互関係が理解できるような相談に努め、研修等を行っていく。 ④支援シートを使いながらの情報共有に努める。 ⑤支援シート等を活用し、教員全体の知識・指導力向上に努める。

評価シート　4-2

令和７年度の主な取り組み内容

<table>
<tr><td>取り組み①</td><td>療育教育総合センターの運営（療育推進事業の推進）</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td>療育教育総合センター</td></tr>
<tr><td>関係する
事業名</td><td>療育推進事業</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>目的：18 歳までの子どものライフステージに応じて継続的に支援を行うため、療育教育総合センターを運営する。
手段：子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもが現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるよう教育と連携した総合的な支援を行う。相談機能を充実させ、学齢期も含めたワンストップ相談受付ができる体制を整え、保護者や支援者の幅広いニーズに応じる。新たな療育体制を構築し、専門性を向上するとともに、教育との連携を強化し、就学後も継続した支援を行う。
実績：
【相談体制の充実】
・療育相談員、専門員等の配置
（ＳＷ３名、療育学齢担当相談員１名、心理士３名、言語聴覚士３名、理学療法士１名、作業療法士３名、保育士１名、嘱託医３名）

<table>
<tr><td></td><td>相談件数</td><td>ケース数</td><td>新規相談者数</td></tr>
<tr><td>令和７年度</td><td>7,321 件</td><td>561 件</td><td>107件</td></tr>
<tr><td>令和６年度</td><td>6,996 件</td><td>552 件</td><td>101 件</td></tr>
</table>

・相談件数は、未就学では年長児が 1,783 件、学齢期では小学校低学年が 1,343 件とそれぞれ最も多く、就学前後の支援体制を強化し、教育との連携のもと就学後も継続した支援を行っている。

【保護者支援・支援者支援】
・市民向け公開講座は昨年度に引き続き、オンラインを併用して開催した。
（開催日：６月 27 日／対面とオンラインのハイブリッ</td></tr>
</table>

	ト方式／対面：35 名、オンライン 40 名参加） ・保育所、幼稚園等への巡回相談による支援者支援 ※（　）は前年比 （延べ 50 回（-4）／対象児実人数 213 名（-9）／延べ数 371 名（-4）） ・オープンデイ （開催日：令和８年１月８日/幼保小中職員　44 名） ・公式インスタグラムの運営 （開設日：令和７年２月 13 日/フォロワー数 281 人（＋165）（令和８年７月１日現在） 【教育等関係機関との連携】 ※（　）は前年比 ・学校への巡回相談による支援者支援 （延べ 17 回（＋4）／対象児実人数 107 名（+71））。 ・支援シート作成および作成会議への参加 （年長時作成件数/実人数 19 名（-7）・作成会議延べ２回（+1）／対象児実人数 12 名（＋10）） ・学校との情報連携 （延べ 184 件（＋37）） ・就学予定児の情報連携会議 （延べ９回（±０）） ・療育学齢担当相談員による各学校との情報共有のほか、就学相談説明会の実施及び校長・教頭会議、教育相談CO 担当者会議、特別支援学級担当者会議、幼保小連携会議等への出席 【療育機能の充実】 　未就学からの持ち上がりにより、放課後等デイサービスの人数が増加している。※（　）は前年比 ・児童発達支援事業の実施（対象：未就学） （実人数 24 名（-7）／延べ 959 回利用（-500）） ・放課後等デイサービスの実施（対象：学齢） （実人数 64 名（＋5）／延べ 2,156 回利用（+390））

評価シート　4-2

取り組み②	早期発見・早期療育のための相談体制等の充実
担当課	療育教育総合センター
関係する事業名	療育推進事業
実施内容	目的：療育を必要とする子どもの早期発見・早期療育への対応のための相談体制及び家族のケアの充実を図る。 手段： ・療育相談員、専門員等を配置し、相談支援に当たる。（ＳＷ３名、療育学齢担当相談員１名、心理士３名、言語聴覚士３名、理学療法士１名、作業療法士３名、保育士１名、嘱託医３名） ・関係機関との連携により、早期相談につながる体制を構築するとともに、療育部門くろーばーとの連携により、経過観察グループから療育支援につなげる体制の充実を図る。 実績： ・新規相談者数 107 件の内訳は、未就学 67 件／学齢 40 件と未就学の割合が高く、早期発見・早期療育を実現している。 ・上記未就学 67 件のうち、健診を含む子育て支援課、巡回を含む幼稚園・保育園からの紹介は 49 件と、関係機関との連携により相談につながっている。 ・定期巡回時の保護者との面談件数も増加しており、来所以外の相談体制の充実を図っている。 （面談件数：43 件（前年比-3 件）） ・療育部門との連携により、経過観察グループから療育支援につながる体制ができている。また、療育相談や経過観察グループの保護者プログラム等で家族のケアを行った。（児童発達支援事業の実施：実人数 24 名（-７）／延べ 959 回利用（-500） ※（　）は前年比

評価シート　4-2

取り組み③	学校や保護者との連携の推進
担当課	学校教育課・療育教育総合センター
関係する 事業名	就学事務事業 支援教育充実事業
実施内容	目的：切れ目ない支援が丁寧に行われるよう、接続期（小中学校入学前）における引継ぎを充実させる。 手段：①新就学説明会を各園等で行う。 ②小６保護者説明会を行う。 ③学校見学、行動観察、面談を重ね、丁寧な就学相談を行う。 実績： ①市内５つの園で開催。こども発達支援センターの説明会にも参加。 ②教育研究相談センターにて開催。特別支援学級在籍保護者以外にも出席する保護者が増えた。 ③就学相談面談は２回以上行い、保護者と学びの場の選択へ向け丁寧に合意形成を図ることが出来た。

取り組み④	支援が必要な児童・生徒についての情報共有の充実
担当課	学校教育課・療育教育総合センター
関係する 事業名	支援教育充実事業
実施内容	目的：学校と教育研究相談センターが情報を整理し、相互連携の充実をはかり、児童生徒理解や、支援に生かす。 手段：①相談員、カウンセラー等関係する他機関がケース会議に参加し、情報共有を図る。 ②支援シートを活用し、適切な支援が共有できるようにする。 ③夏季研修での支援研修を充実させる。 実績： ①相談員がケース会議へ参加する回数の増加、不登校児童や生徒に動きが出るケースの増加。

評価シート　4-2

	②カウンセラー等が学校を巡回する際に支援シートを活用するケースの増加。 ③喫緊の課題に即した夏季研修の開催。

取り組み⑤	学校教育を支援する専門性の高いスタッフの派遣（校内支援体制を活用した支援教育の推進）
担当課	学校教育課・療育教育総合センター
関係する事業名	教育相談事業
実施内容	目的：各校への巡回によって児童生徒の援助ニーズを把握し、関係者への情報提供を行い、具体的対応についての提案を行う。継続的に巡回を実施することで、児童生徒、学級状況の経過観察に基づく提案を行う。 手段：学校の取り組みをサポートするため、スクールカウンセラー、支援教育推進巡回指導員、学習支援員、学校看護介助員などを学校に派遣する。 実績： スクールカウンセラー地域連絡協議会を年２回開催し、アドバイザーをよんでケース共有を行うなど、児童・生徒の支援の充実を図った。また、巡回指導員が支援員への研修を重ね、関わる職員がチームとなって学校教育を支援した。 スクールカウンセラー、支援教育推進巡回指導員、学習支援員、学校看護介助員がチーム学校としてそれぞれの専門性を生かして、個・集団への具体的な関わり方や支援方法等についての提案を行った。

評価シート　4-3

令和７年度の点検・評価

【担当課：学校教育課・療育教育総合センター】

具体的施策								
ICTを活用した授業と情報教育の推進								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の「教員のICT活用指導力等の実態の項目」のうち①「授業にICT を活用して指導する能力」②「情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力」の「できる」「ややできる」の回答が両項目80%以上になっている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		40%	45%	80%	80%	80%	80%	80%
実績		①77% ②77%	①78% ②78%	①65% ②71%				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①授業におけるICT 機器の効果的な活用 ②児童・生徒の発達段階に応じた情報モラル教育と情報リテラシーの育成方法の研究								

自己評価（工夫している点、課題等）	ＧＩＧＡ端末の授業内での活用が一定程度定着してきた中、今年度の調査結果は①「授業にＩＣＴを活用して指導する能力」が 65%、②「情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力」が 71%となり、目標値の 80%を両項目とも下回るとともに、昨年度の 78%からも大きく低下する結果となった。 低下の背景としては、「効果的な活用」を目指す段階において、教員一人ひとりが自らの指導力を厳しく自己評価するようになったことも一因として考えられる。一方で、日常的な授業実践の中で、効果的な使い方を意欲的に学び合えているかという点については課題がある。
外部有識者の意見	昨年度も書いたことだが、人事上の措置により毎年度教員の入れ替えがあること、ＩＣＴ活用に苦手感のある教員が固定化すること等を考慮すると①65%②71%という自己評価は妥当な数字なのかも知れない。もちろん、毎時間 ICT を活用する必要はないが、ICT を「効果的に活用」した授業は現代においては必須である。 市内や校内において、効果的な ICT 活用実践を相互に見合う機会の増大（それこそ ICT を活用して）が望まれる。

評価シート　4-3

今後の取り組みの方向性	各学校における授業公開や事例共有の機会を充実させ、教員が互いの実践から学び合える環境づくりを推進していく。 また、GIGA 端末の入れ替えに伴い、ガイドラインを見直していく。著作権や生成 AI についても盛り込み、児童・生徒の情報モラル教育のさらなる充実を図っていく。 更に、紙とタブレットの使い分けなど、デジタル化に伴う課題について、今後のデジタル教科書の活用の方向性を検討することにもつながることから、様々な情報を収集しながら、学校との間で話題にしていく。

評価シート　4-3

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	授業における ICT 機器の効果的な活用
担当課	学校教育課・療育教育総合センター
関係する事業名	教育用コンピュータ維持管理事業、少人数指導・教育指導教員派遣事業、逗子市夏季研修会事業
実施内容	目的：ＩＣＴ機器を活用した「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善」について考える。 手段：教育指導員、教育指導教員及び指導主事の派遣 実績： ・教育指導教員派遣 令和７年度：小 2744 時間、中 1197 時間指導を実施 令和６年度：小 378 時間、中 712 時間指導を実施 ・指導主事の派遣 令和７年度、６年度ともに年間を通して随時派遣

取り組み②	児童・生徒の発達段階に応じた情報モラル教育と情報リテラシーの育成方法の研究
担当課	学校教育課
関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童生徒指導力向上重点事業
実施内容	目的：教職員の資質向上、学校教育諸活動の充実、学校教育の活性化を図る。 手段：教育情報化推進会議の場を活用する。 実績： 令和７年度実績：令和６年度同様、児童・生徒の発達段階に応じた情報教育の在り方について、各校年間計画に位置付け研究実践し、教育情報化推進会議の場で各学校の取り組みや実状を情報交換してきた。教育活動の中では、各教科や総合的な学習の時間等で、タブレット端末を活用する際に、繰り返し、インターネットやＳＮＳとの適切な関り方について考える機会を設けるなどしている。ＳＮＳがきっかけとなるトラブルはなくならない状況であるが、継続した学びが必要と捉え、引き続きタイミングや内容を工夫しながら実践していく。

評価シート　4-3

評価シート　4-4

令和和７年度の点検・評価

【担当課：学校教育課・療育教育総合センター】

具体的施策								
地域教育力の効果的な活用と幼・保・小・中の相互理解の促進								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
地域講師を活用した授業を各小・中学校で年３回実施する。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		１回	年１～２回	年３回以上	年３回以上	年３回以上	年３回以上	３回
実績		２回	６回	６回				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①コミュニティ・スクールの実現 ②効果的な研修内容の企画と提示 ③幼稚園・保育園・小学校・中学校との連携の推進								

自己評価（工夫している点、課題等）	学校は計画的に地域講師を活用した授業の実施ができているが、地域講師への丸投げ的な授業が散見されることから、市教委が計画段階での指導助言を行い、効果的な実践となるよう努めている。 コミュニティ・スクールの全地域でのスタートに向けた準備を着実に進められた。地域学校協働活動との両輪での推進は社会教育との連携として課題ではあるが、既存の学校支援地域本部の体制はそのまま残っており、当面は学校を支援していただける状況があり積極的に活用していく。 夏季研修会の他市町連携の対象を、「横須賀市、葉山町」から逗三葉合同人事のからみから、「葉山町、三浦市」とした。また、指導主事が主催する自主研修会を夏季研修会に加えて実施し、研修会の内容や実施方法、研修会の在り方等を課題とし検討した。 幼・保・こ・小の架け橋期のカリキュラムの協議・検討をすすめている。小学校では小学校１年生の生活科のカリキュラムを幼児教育の視点で見直しを行っている。年度が変わって担当教員が変わったとしても、カリキュラムをもとにより良い学びを継続していけるようにしていくことが課題である。一方、教員の先進地への視察がかない、教員の意欲向上にもつながり、実践につながるケースも出てきている。

評価シート　4-4

外部有識者の意見	コミュニティ・スクールについては西部地区がスタートし、東部・中部地区も発足に向けた準備が進み、令和８ 年度には市内全地区でスタート出来る見通しとなったことは喜ばしい。 次の課題として、従来の学校支援地域本部の活動を「地域学校協働活動」へ円滑に移行させるべく、社会教育との連携が期待される。 また、ここまで来たのならば、重要業績評価指標の「地域講師を活用した授業を各小・中学校で年３回実施する。」は余りに小さな目標であり、見直しても良いのではないか。
今後の取り組みの方向性	地域講師による学びは引き続き充実させていきたい。特に、子ども発信の体験活動など学びの経験を充実させたい。そのための事業の仕組みを整えていく。 コミュニティ・スクールの推進に寄与すべく、学校教育課としては、地域学校協働本部の立ち上げに向けた社会教育との連携に積極的に関わっていく。 夏季研修会等において、全国教員研修 plant を活用した研修の周知、申込みを実施し、教員以外の教育関係者への周知、申込み方法を工夫するとともに、研修会の実施方法等を検討していく。 幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校との連携については、校種間連携にとどまることなく、「学びの継続」意識をもって、すべての教員が自分事として向き合っていくように、教育委員会としても関わっていく。

評価シート　4-4

令和７年度の主な取り組み内容

<table>
<tr><td>取り組み①</td><td>コミュニティ・スクールの実現</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td>学校教育課</td></tr>
<tr><td>関係する
事業名</td><td>学校支援地域本部事業</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>目的：地域全体で学校教育を支援する体制づくりの推進
手段：各学校に事業を委託し、地域と学校とで学校の実態に合わせた取組みを行う。
西部コミュニティ・スクールの導入にむけた準備会を発足する
実績：
・学校支援地域本部
各学校とも、ニーズに合わせて多くの地域の方に支援に入ってもらった。年度や学校によってニーズのばらつきはあるが、地域の支援で充実した学校教育活動が行えている。具体的な支援回数は以下表のとおりである。
一方、支援に入っていただく地域の方々の高齢化により、持続可能性に課題が出てきている。
<table>
<tr><td></td><td>令和７年度</td><td>令和６年度</td></tr>
<tr><td>ゲストティーチャー型</td><td>２７回</td><td>２６回</td></tr>
<tr><td>学習アシスタント型</td><td>１６６回</td><td>１９４回</td></tr>
<tr><td>施設メンテナー型</td><td>７３回</td><td>０回</td></tr>
<tr><td>環境サポーター型</td><td>６９回</td><td>５１回</td></tr>
<tr><td>部活動サポーター型</td><td>２４６回</td><td>２２７回</td></tr>
<tr><td>安全見守り型</td><td>２３回</td><td>０回</td></tr>
<tr><td>教育指導教員型</td><td>１１２回</td><td>７７回</td></tr>
<tr><td>特別支援教育支援型</td><td>３９回</td><td>２３回</td></tr>
</table>
・コミュニティ・スクール
東部・中部は、導入（令和８年度）準備会を発足し、導入に向けた定期的な管理職ミーティングの開催及び学校、ＰＴＡ、地域関係者との研修会の実施をした。
西部は、予定通り正式導入をし、予定より多く年５回学校運営協議会を開催した。夏には熟議も開催し、地域へのコミュニティ・スクールについての理解浸透に寄与した。</td></tr>
</table>

取り組み②	効果的な研修内容の企画と提示

評価シート　4-4

担当課	療育教育総合センター
関係する事業名	調査・研究事業
実施内容	目的：地域全体で学校を支援する体制づくり及び、指導員の知識、技能向上。 手段：放課後児童クラブやふれあいスクール指導員が参加できる子どもに関わる研修内容を検討し夏季研修会にて企画し、参加を促していく。 実績： 令和７年度： ・小・中学校教職員以外の参加者数は合計 55 名。 ・市費 SC によるふれあいスクール指導員対象研修を５施設を２日に分けて実施。 令和６年度： ・小・中学校教職員以外の参加者数は合計 181 名。 ・市費 SC によるふれあいスクール指導員への研修を５施設で年１回実施。

取り組み③	幼稚園・保育園・小学校・中学校との連携の推進
担当課	学校教育課
関係する事業名	就学事務事業 調査・研究事業
実施内容	目的：幼児教育・保育と小学校教育との発達や学びの連続性を踏まえた教育内容の充実 手段：年間 3 回の会議を実施（うち１回は夏季研修会を兼ねる）し、実践を共有する。 実績： 幼・保・小連携推進連絡調整会議２回実施。夏季研修を１回実施。加えて、「架け橋期のカリキュラム研究員会」を年３回、「スタートカリキュラム検討会議」を各小学校１回ずつ実施。令和６年度に準備してきた具体的なカリキュラム作成・検討を幼・保担当者と連携し行えた。

5 ふるさとの遺産をまもりつないでいくまち

（基本構想の取り組みの方向）

わたしたちの身近にある様々な文化財は、先人たちの暮らしの中で生まれ、育まれ、受け継がれてきたものであり、このまちに暮らすわたしたちの心を支え、豊かにするものとして後世にながく伝え、いかしていくべきふるさとの遺産です。

文化財を適切に保存しつつ、わたしたちの身近な歴史から共に学び、共に育ち、次世代へ誇りや愛着をつないでいくまち、ふるさとの遺産を共にまもり、つないでいくまちをめざします。

－　逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋　－

評価シート　5-1

令和７年度の点検・評価

【担当課：社会教育課】

具体的施策								
文化財保護の推進								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
市指定文化財の数が２４件に増加している。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		22	23	23	23	23	24	24
実績	21	22	23	23				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①文化財の展示活用の推進 ②史跡の公開活用 ③未指定文化財の調査（文化財の新規指定及び積極的な公開活用）								

自己評価（工夫している点、課題等）	・有形文化財１件について、所有・管理者及び学識者との事前調整を行い、次年度に指定できるよう準備を整えた。
外部有識者の意見	・候補物件は多数あるので毎年指定できるよう計画的に準備を進めるほか、市民への周知にも努められたい。
今後の取り組みの方向性	・過去の各種調査結果に基づきリストアップした候補物件について、指定に向けて所有・管理者と協議調整を積極的に進める。 ・未指定文化財を保護する仕組みを引き続き検討する。 ・デジタル技術の活用など、様々な方法による文化財の公開活用を推進する。

評価シート　5-1

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	文化財の展示活用の推進
担当課	社会教育課
関係する 事業名	【A】文化財保護事業 【B】池子遺跡群保護事業
実施内容	目的：【A】文化財の保存及び公開活用等を行う。 【B】市民が地元の歴史に触れることができるよう、出土資料の公開活用を図る。 手段：【A】指定文化財の維持管理及び、所有・管理者に対し必要な支援を行う。 【B】池子遺跡群発掘調査資料等を適切に保存・整理し展示公開する。 実績：【A】 ・管理奨励交付金の交付　R7 年度　16 件 R6年度　15 件 ・史跡指定地等維持管理作業（除草等）　随時 【B】 ・所蔵資料保存処理　R7年度　木製品１点 R6年度　木製品３点 ・来館者数　R７年度　1,773人（開館307日） R６年度　1,673人（開館309日）

取り組み②	史跡の公開活用
担当課	社会教育課
関係する 事業名	【A】名越切通維持管理事業 【B】名越切通整備事業 【C】長柄桜山古墳群維持管理事業
実施内容	目的：【A】史跡名越切通の保存活用を図る。 【B】史跡名越切通を整備する。 【C】史跡長柄桜山古墳群の保存活用を図る。 手段：【A】指定地を適切に維持管理し公開する。 【B】整備実施計画に基づき保存工事を行う。 【C】指定地を適切に維持管理し公開する。

評価シート　5-1

	実績：【A】 ・まんだら堂やぐら群限定公開 R7年度 入場者 5,785人 寄附金 268,643円 R6年度 入場者 7,277人 寄附金 361,472円 ・維持管理作業（除草、樹木伐採等） 【B】 ・まんだら堂やぐら群 C 群測量、発掘調査の実施 ・まんだら堂やぐら群 C 群整備設計の検討 ・石塔保存処理の実施 ・名越切通リーフレットの印刷 【C】 ・第１号墳舗装補修工事 ・維持管理作業（除草、樹木伐採等）

取り組み③	未指定文化財の調査（文化財の新規指定及び積極的な公開活用）
担当課	社会教育課
関係する事業名	【A】文化財保護委員会経費 【B】文化財保護事業
実施内容	目的：【A】専門的な考察に基づいて文化財保護行政を推進する。 【B】文化財の保存及び公開活用等を行う。 手段：【A】諮問等を通じて学識者の意見を聴取する。 【B】未指定文化財について資料を収集する。 実績： 【A】 ・文化財保護委員会の開催　R７年度　３回 R6 年度　４回 ・指定候補物件の検討　１件(有形文化財建造物) 【B】 ・市民からの情報提供等に基づく資料の現況把握　随時

評価シート　5-1

6 誰もが心豊かに子育て・子育ちできるまち

（基本構想の取り組みの方向）

急速な少子化の進行や、家庭や地域を取り巻く環境の変化、地域とのつながりの希薄化の中で、心豊かに子育てをするためには、子育てに対する不安や孤立感を減らし、子育ての喜びを実感できることが必要です。子育てを親が主体的に行えるよう、まち全体で子育てを応援し、住み慣れた地域で安心して子どもを生み育てることのできる総合的な支援体制の充実をめざします。

さらに、家庭環境や雇用形態の多様化などを踏まえ、家庭と地域や学校等が相互に協力し、まちを生かした豊かな遊びと学びの環境を整え、すべての子どもがその権利を擁護され、愛され信頼されることを通じて、次世代を担う子どもたちが、心身共にたくましく生きる力と豊かな人間関係を培うことができるよう、地域と共に子育て・子育ちできるまちづくりをめざします。

－　逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋　－

評価シート　6-1

令和７年度の点検・評価

【担当課：子育て支援課】

具体的施策								
妊娠前からの子育ての相談・支援の充実								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
保健師及び助産師が、乳児がいるすべての家庭を訪問し、相談に応じている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		100	100	100	100	100	100	100
実績	92	94.87	96.52	98.38				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①乳幼児健診等の充実 ②妊婦健診の充実 ③産後ケア事業による支援 ④妊産婦・乳児訪問等の実施 ⑤パパママ準備クラス（母親両親教室）の充実 ⑥不妊治療、不育症治療に係る助成 ⑦思春期から妊娠適齢期の健康相談、健康教育等の実施								

自己評価（工夫している点、課題等）	訪問の実施率が 100%に達しない理由は、長期里帰りで訪問希望無し者や他市町村への転出で訪問できなかった者で、可能な対象に対してほぼ全員実施できている状況です。
外部有識者の意見	「逗子市子ども・子育て会議」にて委員からの意見を求めたが、長期の里帰りや出産後の転出等やむを得ない理由であるとの理解を得て、特段の意見はなかった。
今後の取り組みの方向性	・妊娠期から産後の支援強化として経済的支援と伴走型支援（専門職の継続的支援）を並行して実施。 ・情報を１冊にまとめた子育てガイドの作成・配付を継続（年度毎に更新）。 ・対象者の状況やニーズに合わせて家庭訪問だけでなく庁内面接等他の手段も取り入れ対応。

評価シート　6-1

	・本事業だけでなく、居住年数の少ない家族には主任児童委員（民生委員の中で児童福祉に関することを専門に担当）えがおサポート訪問や地域のサロンにつなげる等、他部署・他機関との連携を強化し、家族の孤立予防に努める。

評価シート　6-1

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	乳幼児健診等の充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	乳幼児健診事業
実施内容	目的：乳幼児の心身の健康の確認、疾病や障がいを早期に発見し、早期治療及び早期療育を実現する。また、健康な乳幼児に対しても子育て支援を行い、知識の普及と親の不安の解消を図る。 手段：成長・発達の確認、疾病の早期発見、育児不安の軽減を目的とし、Key age(キーエイジ)に、問診、計測、診察、個別相談を実施する。 　基本のスタッフは医師、看護師、保健師。母乳・授乳時期には助産師、離乳食が始まる時期からは管理栄養士を追加。お誕生日前健診は、歯科衛生士による歯の話を対象者全員へ実施。１歳６か月児健診・３歳児健診からは、歯科医師、歯科衛生士を追加し歯科健診・相談を実施。また、発達相談のため公認心理師（臨床心理士）を増やして実施する。 実績：

	令和７年度			令和 ６年度		
	対象児数	受診児数	%	対象児数	受診児数	%
1か月児健診	247人	184人	74.5%	（未実施）		
４か月児健診	259人	258人	99.6%	239人	234人	97.9%
お誕生日前健診	257人	253人	98.4%	256人	250人	97.7%
１歳６か月児健診	253人	249人	98.4%	296人	277人	93.6%
３歳児健診	345 人	331 人	95.9%	35 人	349 人	98.3%

取り組み②	妊婦健診の充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	妊産婦健診事業

評価シート　6-1

実施内容	目的：妊産婦の健康管理の強化徹底を図り、妊婦、乳児の死亡率の低下、流産・死産の防止及び心身の障がいを予防する。 手段：医療機関や助産院に委託し、妊婦健康診査・産後健康診査を実施する。 実績：　令和７年度　令和６年度 妊婦健康診査受診者数　3,227 人　3,085 人

取り組み③	産後ケア事業による支援
担当課	子育て支援課
関係する事業名	妊産婦健診事業
実施内容	目的：心身のケアや育児サポート等を行い、産後安心して子育てができるよう支援する。 手段：医療機関や助産院に委託し、産後１年未満の産婦とその子を対象に、宿泊型、通所型及び訪問型のサービスを実施し、産婦の健康管理及び生活指導、乳房ケア・授乳指導、乳児の発育・発達観察、家庭に戻ってからの子育てや生活の相談・指導等を行う。 実績：令和７年度 宿泊型（実）40人　（通算157日） 通所型（実）　30人　（通算43日） 訪問型（実）　11 人　（通算 28 日） 令和６年度 宿泊型（実）41 人　（通算 141 日） 通所型（実）　20人　（通算20日） 訪問型（実）　13 人　（通算 14 日）

取り組み④	妊産婦・乳児訪問等の実施
担当課	子育て支援課
関係する事業名	妊産婦・乳児訪問等事業

評価シート　6-1

実施内容	目的：母子が必要としている援助を行うとともに、育児不安の解消、適切な育児、子どもの発達や養育環境の観察を行う。 手段：妊婦訪問及び「こんにちは赤ちゃん訪問事業」として、未熟児を含めた乳児の全戸訪問を行い、保健師・助産師による産婦、乳児、その家族等に対し、訪問指導を実施する（妊娠期からのハイリスク妊婦、面談を希望する妊婦等に妊婦訪問も実施）。 実績：　令和７年度　令和６年度 対象児　247人　230人 訪問実施　243人　222人 実施率　98.38%　96.52%

取り組み⑤	パパママ準備クラス（母親両親教室）の充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	妊産婦・乳幼児教室事業
実施内容	目的：妊娠・出産・育児についての知識の普及を図り、親が共に育児を行う大切さを伝えるとともに、妊娠期からの仲間づくりの支援を行う。 手段：FirstStep（妊娠中の不安を減らそう（助産師の講義、マタニティストレッチ他））、SecondStep（親となる準備をはじめよう（公認心理師からの講義、沐浴実習他））、ThirdStep（出産に向けた準備と確認、オムツ交換・ミルク・抱っこ等の実習）、FourthStep（産後の教室）に分けてパパママ準備クラスを開催する。 実績：令和７年度 FirstStep、SecondStep、ThirdStep、FourthStep　各４回ずつ 臨時開催　１回（定例開催の定員超過したため）　計 17 回 参加者数：妊婦・夫他（延べ数）211 人 令和６年度 FirstStep、SecondStep、ThirdStep　各４回ずつ計 12 回 FourthStep　２回/年実施 参加者数：妊婦・夫他（延べ数）203 人

評価シート　6-1

取り組み⑥	不妊治療、不育症治療に係る助成
担当課	子育て支援課
関係する事業名	特定不妊治療費等助成事業
実施内容	目的：妊娠を望む夫婦の経済的な軽減を図る。 手段：生殖補助医療（体外受精・顕微授精・男性不妊）の治療に要した費用の一部を助成する。 実績：申請件数　令和７年度　令和６年度 生殖補助医療費助成　46件　34件（５年度から実施） 不育症医療費助成事業　０件　０件（５年度から実施）

取り組み⑦	思春期から妊娠適齢期の健康相談、健康教育等の実施
担当課	子育て支援課
関係する事業名	―
実施内容	目的：将来の妊娠や体の変化に備えて自らライフプランを考えられるように支援する。 手段：保健師による健康相談の一環として、思春期から妊娠適齢期の健康相談、健康教育等に対応する。 実績： 相談の中で、対象となる相談者に随時アドバイスを行う他、ホームページ「妊娠・出産を望まれる方へ」の情報リンクの整備、思春期保健（健康教育）に関わる情報収集を行っている。 件数未把握

評価シート　6-2

令和７年度の点検・評価

【担当課：子育て支援課】

具体的施策								
子育てを支える取り組みの推進								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
ファミリー・サポート・センター＊に登録している支援会員（両方会員を含む）の登録人数が550 人になっている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		440	460	480	500	520	540	550
実績	442	415	423	425				

具体的施策を構成する主な取り組み

①子育て情報提供の充実
②ファミリー・サポート・センター事業の充実
③保育所、幼稚園等による相談、一時預かり等の支援の充実
④放課後児童への対応の充実（放課後児童クラブ）
⑤放課後児童への対応の充実（ふれあいスクール）
⑥病児・病後児保育の充実
⑦親子遊びの場の運営
⑧ほっとスペース、自然の遊び場（プレイパーク等）の運営
⑨子育てに係る相談の充実
⑩子育て支援センターの運営
⑪ひとり親家庭等への継続的な支援
⑫支援を必要とする子どもに対する学習支援
⑬子どもの貧困に関する取り組み
⑭小児医療費に係る助成の充実
⑮要保護児童に対する取り組み
⑯居場所づくりへの支援

評価シート　6-2

自己評価（工夫している点、課題等）	以前からの課題について、課題１つ目として連続した日程の解消があった。支援会員になるためには研修を全て受講する必要があるため、連続した日程だと休みがとれず参加できないとの声が多かった。そのため令和７年度も、連続で６日間にならないように開催をした。 課題２つ目として開催場所へのアクセスの改善があった。以前は体験学習施設スマイルで開催していたが、令和７年度は第１回第２回共に市役所会議室で行った。しかし開催形態以前の問題で、受講者数の確保に課題があり、これらの変更は受講者数には影響していない。 受講後のアンケートで好評だった子育て支援センターでの託児については、会議室での開催よりも託児の環境が整っていて安心できるとの声、また無料で託児を利用できることを評価する声があったため、今年度も継続した。 課題の３つ目として、周知不足があったため、未就学の子どもを持つ保護者をターゲットにし、市内保育園へもチラシでの周知をおこなった。ただ、今年度は研修会参加にはつながらなかったため、今後も継続する予定である。
外部有識者の意見	「逗子市子ども・子育て会議」にて委員からの意見を求めたが、特段の意見はなかった。
今後の取り組みの方向性	受講者が増えない原因として、周知不足と、研修期間の長さが考えられる。 周知方法として、現在は広報誌、広報板、チラシでの周知を行っているが、メルマガへの掲載等、新たな周知方法をとる。またアンケートの声として、いつでも見られるようにオンラインが一部あるとよい、昼をまたがない時間帯がよいなど、受講期間の長さに対しての意見があった。そのため、講座時間を工夫する、またオンラインで受講・復習ができるようにするなどの新たなアプローチをとる。

評価シート　6-2

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	子育て情報提供の充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	―
実施内容	目的：子育てに関係する情報の一元化、総合化を行い、子育て情報の提供を充実させる。 手段：ポータルサイトえがおの運営 実績：レイアウトを見やすく改変した。 ポータルサイトえがおアクセス数 令和７年　　4,243 件 令和６年　　8,010 件

取り組み②	ファミリー・サポート・センター事業の充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	ファミリー・サポート・センター運営事業
実施内容	目的：安心して子育てができる環境を整える。 手段：事業者への委託により、子育てについて、地域の人たちがお互いに助け合っていくことをめざして子どもの預かりを行う相互援助活動の仲介、及び支援を行う会員の育成を行う。 実績： 令和７年度　依頼会員　1,317 人 支援会員　236 人 両方会員　189 人 活動件数　2,306 件 令和６年度　依頼会員　1,310 人 支援会員　231 人 両方会員　192 人 活動件数　1,683 件

評価シート　6-2

取り組み③	保育所、幼稚園等による相談、一時預かり事業等の支援の充実
担当課	保育課
関係する事業名	一時預かり事業
実施内容	目的：国の一時預かり事業実施要綱に基づき、保育所等において、児童を一時的に預かることで、安心して子育てできる環境を整備する。 手段：保育所等が行う一時預かり事業に対して補助を行う。 実績： ・一般型　　6,392,000 円　４園（令和６年度４園） ・幼稚園型Ⅰ　17,770,000 円　６園（令和６年度４園）

取り組み④	放課後児童への対応の充実（放課後児童クラブ）
担当課	保育課
関係する事業名	放課後児童クラブ事業
実施内容	目的：保護者が就労等により自宅にいない家庭の小学生を対象に、放課後の生活の場を提供する。 手段：指定管理制度等により事業を実施する。 実績： ・放課後児童クラブ指定管理料 逗子小学校区放課後児童クラブ　18,978,608 円 沼間小学校区放課後児童クラブ　24,645,732 円 久木小学校区放課後児童クラブ　21,394,504 円 小坪小学校区放課後児童クラブ　13,226,482 円 池子小学校区放課後児童クラブ　14,756,700 円

5/1 時点	令和７年度	令和６年度	増減
逗子小	109 人	111 人	△２人
沼間小	107 人	91 人	16 人
久木小	112 人	110 人	２人

	<table><tr><td>小坪小</td><td>58 人</td><td>57 人</td><td>１人</td></tr><tr><td>池子小</td><td>56 人</td><td>55 人</td><td>１人</td></tr><tr><td>補助型</td><td>18 人</td><td>16 人</td><td>２人</td></tr></table>・補助型放課後児童クラブ運営費補助金 11,617,000 円 ・放課後児童支援員等処遇改善事業　　5,058,900 円 令和７年５月１日時点の待機児童数は０名となっている。

取り組み⑤	放課後児童への対応の充実（ふれあいスクール）
担当課	子育て支援課
関係する事業名	ふれあいスクール事業
実施内容	目的：家庭・地域・学校の連携のもとに、小学生の放課後の居場所、遊び場及び異年齢交流の場を確保する。 手段：ふれあいスクールの開設 実績：（カッコ内は前年実績） ◎開所日数 ・逗子小：231 日（234 日）、久木小：214 日（216 日）、小坪小：226 日（230 日）、沼間小：218 日（216 日）、池子小：220 日（220 日） ◎延べ利用者数 ・逗子小ふれスク 16,925 人（19,824 人） ・久木小ふれスク 14,290 人（14,853 人） ・小坪小ふれスク 6,273 人（7,917 人） ・沼間小ふれスク 16,061 人（12,545 人） ・池子小ふれスク 8,010 人（6,278 人） ・計 61,559 人（61,417 人） 各小学校の空き教室を活用し、放課後の児童の居場所として多くの児童に利用されていることから、事業としては充実しているものと考える。

取り組み⑥	病児・病後児保育の充実

評価シート　6-2

担当課	子育て支援課
関係する事業名	ファミリーサポートセンター運営事業
実施内容	目的：安心して子育てができる環境を整える。 手段：事業者に委託する相互援助活動として行うファミリーサポート運営事業の中で、病児・病後児預かりを実施する。 実績：未実施 令和７年度：病後児保育の再開を目指し検討した。 令和６年度：支援会員の新型コロナウイルス感染に対する慎重な姿勢により中止を継続した。

取り組み⑦	親子遊びの場の運営
担当課	子育て支援課
関係する事業名	親子遊びの場運営事業
実施内容	目的：親子遊びの場など親子が自由に利用でき、集える場を確保する。 手段：親子遊びイベント、親子遊びの場の開設。 実績：（カッコ内は前年実績） ◎親子遊びの場（プレイルーム）を市内３か所（沼間、小坪、池子）に設置し、育児サークル等に場所を貸す、貸しスペース事業を行った。 ・貸し出し実績 小坪０件（０件）、池子６件（1 件） ※沼間の貸しスペース事業は令和５年度にて終了。 ・親子ひろば 令和７年度参加者 182 人（140 人） ・乳幼児とその保護者を対象とした親子ひろばを開催し、利用者間の交流を図ることができた。 ◎ボーネルンド親子遊びイベントを３回実施した。 第１回　365 人 第２回　 91 人 第３回　206 人

	※体験学習施設スポーツルームにて開催。 ・親子遊びイベントについては、大型遊具を活用し、親子での情操を養い、子どもの健全な発育の支援につなげることを目的とした遊びができる場を提供した。暑さ対策として、昨年度に引き続き今年度も室内で開催した。参加者も多く、イベントは好評であった。

取り組み⑧	ほっとスペース、自然の遊び場（プレイパーク等）の運営
担当課	子育て支援課
関係する事業名	ふれあいスクール事業
実施内容	目的：家庭・地域・学校の連携のもとに、小学生の放課後の居場所、遊び場及び異年齢交流の場を確保する。 手段：ほっとスペースの開設 実績：（カッコ内は前年実績） ◎ほっとスペース開設日数 逗子 73 日（74 日）、久木 69 日（59 日）、小坪 137 日（136 日）、沼間 142 日（143 日）、池子 280 日（286 日） ◎延べ利用者数 逗子 610 人（650 人）、久木 731 人（332 人）、小坪 409 人（164 人）、沼間 787 人（475 人）、池子 9,983 人（12,216 人）、計 12,520 人（13,837 人） ・ほっとスペースを開設することで乳幼児とその保護者間の交流を図ることができたが、暑さの影響もあって全体で見ると利用人数が減少した。 ※自然の遊び場運営事業は令和４年度から事業廃止。

取り組み⑨	子育てに係る相談の充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	逗子市こども家庭センター

評価シート　6-2

実施内容	目的：児童虐待に対する早期発見と虐待予防を行う。 手段：逗子市要保護児童援助ネットワーク会議を中心に、関係機関が有機的に連携し、ケアが必要な児童の保護、保護者支援等、子どもの立場に立った支援体制の充実を図る。 実績：　令和７年度　令和６年度 要保護児童実数　119人　144人 こども相談　213人　203人

取り組み⑩	子育て支援センターの運営
担当課	子育て支援課
関係する事業名	子育て支援センター運営事業
実施内容	目的：市民に対する子育て支援を積極的に推進する。 手段：事業者への委託により、育児不安等についての相談事業、育児サークル等の育成・支援、子育て中の親たちの自主活動を支援する。 実績： 令和７年度 子育て支援センター利用者数　4,173 組　9,278 人 小坪巡回相談利用者数　118 組　242 人 沼間巡回相談利用者数　259 組　544 人 令和６年度 子育て支援センター利用者数　4,203 組　8,992 人 小坪巡回相談利用者数　89 組　195 人 沼間巡回相談利用者数　118 組　248 人

取り組み⑪	ひとり親家庭等への継続的な支援
担当課	子育て支援課
関係する事業名	ひとり親家庭等福祉手当支給事業

評価シート　6-2

実施内容	目的：ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援する。 手段:ひとり親家庭等に月額 6,000 円の手当を支給する。 実績：　　対象世帯 令和７年度　142 世帯（令和８年３月支払い実績件数） 令和６年度　159 世帯（令和７年３月支払い実績件数）

取り組み⑫	支援を必要とする子どもに対する学習支援
担当課	子育て支援課
関係する事業名	逗子市こども家庭センター
実施内容	目的：子どもが環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備し、教育の機会均等を図る 手段：ひとり親家庭相談員と子ども相談員、福祉部社会福祉課、社会福祉協議会等が連携し、家庭状況を把握することに加え、逗子市要保護児童援助ネットワーク会議において情報を収集し、教育・福祉・その他関係機関と連携し課題解決に取り組む。 実績：　令和７年度　令和６年度 要保護児童実数　119人　144人 こども相談　213 人　203 人

取り組み⑬	子どもの貧困に関する取り組み
担当課	子育て支援課
関係する事業名	逗子市こども家庭センター
実施内容	目的：子どもが環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備し、教育の機会均等を図る 手段：ひとり親家庭相談員と子ども相談員、福祉部社会福祉課、社会福祉協議会等が連携し、家庭状況を把握することに加え、逗子市要保護児童援助ネットワーク会議において情報を収集し、教育・福祉・その他

評価シート　6-2

	関係機関と連携し課題解決に取り組む。 実績：　令和７年度　令和６年度 要保護児童実数　119人　144人 こども相談　213 人　203 人

取り組み⑭	小児医療費に係る助成の充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	小児医療費助成事業
実施内容	目的：小児の健康の増進を図り、健全な育成を支援する 手段：小児に係る医療費のうち健康保険の自己負担分を給付する。 令和５年度から、対象を 15 歳の誕生日後の最初の３月 31 日までから 18 歳の誕生日後の最初の３月 31 日までに引き上げ、また所得制限を撤廃して対象を拡大している。 実績： 令和７年度 医療証対象者数　7,576 件（令和７年度末） 助成額　235,187,698 円（年間支出額） 令和６年度 医療証対象者数　7,799 件（令和６年度末） 助成額　243,880,825 円（年間支出額）

取り組み⑮	要保護児童に対する取り組み
担当課	子育て支援課
関係する事業名	逗子市こども家庭センター
実施内容	目的：児童虐待の防止と予防を行う。 手段：児童及び妊産婦の実情の把握、必要な情報の提供、家庭その他からの相談に応じ、必要な調査及び指導を行う。

評価シート　6-2

	実績：　　令和７年度　令和６年度 要保護児童実数　　119人　　144人 こども相談　　213 人　　203 人

取り組み⑯	居場所づくりへの支援
担当課	子育て支援課・療育教育総合センター
関係する 事業名	―　　（子育て支援課） 療育推進事業（療育教育総合センター）
実施内容	（子育て支援課） 目的： ・子どもたちや保護者などが安心して過ごすことができる場所の提供および居場所づくりを取り組む市民団体への支援。 手段： ・子どもたちや保護者などが、身近な地域で気軽に集まり、おしゃべりをするなど自由にくつろぎ、安心して過ごせる居場所づくりをサポートする。 ・子どもたちや保護者などの居場所づくりに取り組んでいる民間団体を支援し連携を図る。 実績： ・フリースクールや子育て支援団体に対して、スマイルの各施設を無償で優先的に貸し出しを行った。 ・団体等に対し、定期的に施設を提供したことで、子どもの居場所が提供できたこと及び保護者間の交流が図れた。 （療育教育総合センター） 目的： ・子どもたちや保護者などが、身近な地域で気軽に集まり、おしゃべりをするなど自由にくつろぎ、安心して過ごせる居場所づくりをサポートする。 ・子どもたちや保護者などの居場所づくりに取り組んでいる民間団体を支援し連携を図る。

評価シート　6-2

	手段： 【こども発達支援センター】 ・子どもの育ちに関する療育相談をはじめ、児童精神科の医師による講座や、センターで行う勉強会等を開催し、子育ての不安や悩み等を相談できる場を提供する。 【教育研究相談センター】 ・登校困難な子どもたちの多様な学習の場として教育支援センター通称「なぎさ」（旧適応指導教室）を運営する。 実績： 【こども発達支援センター】 ・経過観察グループ時の保護者プログラム、難聴児を持つ保護者の集まり、就学に向けた家族勉強会を実施し、専門スタッフが保護者からの相談に応じたり、保護者同士で情報共有をできることで、一人で不安や悩みを抱えずに過ごせる場を提供した。 ・ひなたサロンを定期開催することで、センター利用者が交流できる場を提供した。 ・市民向け公開講座 （6月 27 日／対面：35 名、オンライン 40 名参加） ・経過観察時の保護者プログラム （延べ 39 回） ・難聴児を持つ保護者の集まり （令和８年３月 26 日／保護者７名　こども９名参加） ・就学に向けた家族勉強会 （延べ３回／29 名） 【教育研究相談センター】 ・教育支援センター通称「なぎさ」（旧適応指導教室） 延べ通室児童・生徒数 ４３９名（－１７７ 名） 体験 １３７名（＋４８名） ※（ ）は前年比 ・令和５年度から、「なぎさ」への通室ルートに、巡回 SC 及び県費 SC とのカウンセリングを経て、校内支援会議で検討して、受入れを可能とする体制を緩和したことにより人数が増加した。

評価シート　6-3

令和７年度の点検・評価

【担当課：保育課】

具体的施策								
幅広い保育ニーズに対応できる体制づくり								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
保育所等入所待機児童が０人になっている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		０人	０人	０人	０人	０人	０人	０人
実績	13人	11人	6人	３人				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①保育の充実と選択肢の拡大（子ども・子育て支援新制度の円滑運用） ②保育士確保の取り組み ③様々な保育ニーズへの対応（保育環境の充実） ④幼稚園就園等に係る支援								

自己評価（工夫している点、課題等）	保育所等利用者支援員による適切な情報提供等もあり、待機児童数は前年度より減少した。
外部有識者の意見	子ども・子育て会議において令和７年度の事業報告を行ったが、審議会のメンバーより意見等もなく、所管の取組が評価されていると見なしている。
今後の取り組みの方向性	待機児童がいる一方で、希望入所先と年齢が合わないことから、空きのある保育所等もでてしまい、保育需要と供給のアンマッチが起きている。 引き続き、市内全域で情報共有と連携を強化していく。

評価シート　6-3

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	保育の充実と選択肢の拡大（子ども・子育て支援新制度の円滑運用）
担当課	保育課
関係する事業名	利用者支援事業
実施内容	目的：1 人ひとりの子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、子ども及びその保護者等、または妊娠している方がその選択に基づき、多様な教育・保育施設等を円滑に利用できるよう必要な支援を行う。 手段：保育所等利用者支援員の配置　２名 実績：保育所等利用者支援員報酬及び手当 5,389,200 円

取り組み②	保育士確保の取り組み
担当課	保育課
関係する事業名	民間保育所等運営支援事業
実施内容	目的：民間保育所等の運営費の一部を市単独事業として助成し、児童の健全育成を図る。 手段：民間保育所の保育士等の職員の確保に要した費用に対して補助を行う。 実績：民間保育所人材確保補助　４園　1,724,912 円

取り組み③	様々な保育ニーズへの対応（保育環境の充実）
担当課	保育課
関係する事業名	―
実施内容	目的：子どもの良質な生育環境の整備、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化する。 手段：「こども誰でも通園制度」の実施準備 実績： 「こども誰でも通園制度」が 2026 年度から全国の自治

	体で実施されるのを前に、実施の準備を行った。

<table>
<tr><td>取り組み④</td><td>幼稚園就園等に係る支援</td></tr>
<tr><td>担当課</td><td>保育課</td></tr>
<tr><td>関係する
事業名</td><td>幼児教育・保育無償化給付等事業</td></tr>
<tr><td>実施内容</td><td>目的：私学助成幼稚園（満３歳以上）、認可外保育施設（３歳児クラスから５歳児クラス）等の利用児童の利用料、保育認定を受けた保護者が利用した幼稚園の預かり保育の利用料について市が助成し、保護者の負担軽減を図る。
手段：幼児教育・保育の無償化による給付を実施する。
実績：70,623,834 円
<table>
<tr><td></td><td>令和７年度</td><td>令和６年度</td><td>増減</td></tr>
<tr><td>幼稚園（上限 25,700 円）</td><td>76 人</td><td>104 人</td><td>△28 人※</td></tr>
<tr><td>認可外及び一時預かり保育施設（上限 37,000 円）</td><td>105 人</td><td>112 人</td><td>△7 人</td></tr>
<tr><td>預かり保育事業（1 日につき上限 450 円）</td><td>166 人</td><td>152 人</td><td>14 人</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

評価シート　6-3

評価シート　6-4

令和７年度の点検・評価

【担当課：子育て支援課】

具体的施策								
子どもたちの居場所づくりの推進								
重要業績評価指標（KPI）【2029年度】								
体験学習施設「スマイル」の主催講座の延べ参加者数が2,000 人/年になっている。								
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
目標		2000	2000	2000	1300	1500	1750	2000
実績	883	945	1239	956				
具体的施策を構成する主な取り組み								
①体験学習施設「スマイル」での講座やイベントの充実 ②青少年の健全な育成に係る事業の推進								

自己評価（工夫している点、課題等）	2024 年度と比較して講座の延べ参加者数が減少し、目標達成に至らなかった。 定員に満たず中止になった講座があったこと、講師の調整が難しかったことが参加者数減少の要因であったと考える。
外部有識者の意見	「逗子市子ども・子育て会議」にて委員からの意見を求めたが、特段の意見はなかった。
今後の取り組みの方向性	講師の報酬等の条件、受講者の募集方法、開催日時等を見直していく。併せて引き続き子どもたちがより参加したいと思える講座を企画していく。

評価シート　6-4

令和７年度の主な取り組み内容

取り組み①	体験学習施設「スマイル」での講座やイベントの充実
担当課	子育て支援課
関係する事業名	体験学習施設講座等事業
実施内容	目的：児童青少年の健全育成に資するため、今までに経験したことのない、また、興味をもってもらえるようなことについて体験する講座・イベントを開催する。 手段：各講座やイベントの実施 実績： ◎主催イベント スマイルハロウィン ・10 月 26 日（日）参加者数 約 1,000 人（令和６年度 2,000 人、イベント当日の天候は雨。） ◎主催講座 ・118 講座（令和 6 年度 52 講座）延べ参加者数 956 人（令和６年度 1,239 人） ・定員に満たず中止になった講座があったこと、講師の調整が難しかったことから、前年度に比べ、参加者数が減少してしまった。

取り組み②	青少年の健全な育成に係る事業の推進
担当課	子育て支援課
関係する事業名	青少年問題協議会経費
実施内容	目的：児童青少年の健全育成に資するため、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する各関係機関との連絡調整及び調査審議を行う。 手段：青少年問題協議会の実施 実績： 内容： 青少年問題協議会　全１回実施（令和６年度１回） 第１回　10月６日

評価シート　6-4

	協議会を開催し、各関係機関と児童青少年の健全育成に関する情報を共有することができた。善行ほう賞の推薦者がいなかったため、協議会が１回のみの開催となった。

評価シート　6-4

７ 教育委員会への意見及び助言

〈学識経験を有する者の意見、助言〉　＜佐久間邦友氏＞

令和７年度における各施策については、それぞれの事業目的を踏まえつつ、前年度までの成果や課題などを検証し、必要に応じて事業内容の改善を図っていることが確認できた。また評価指標の達成状況のみならず、それぞれの事業が市民や子どもたちにどのような機会や支援を提供したのかという観点から点検・評価を行うことも重要であると考える。

１．　子どもも大人も共につながり成長していく生涯学習のまち

社会教育においては、幅広い学習機会が提供されており、講座の満足度についても令和 7 年度は 91.39％となっている。特に、「学校づくりと地域づくりの困難と希望」講座のように、学校を会場として教職員、地域住民、保護者、生徒がともに学ぶ機会を設けられたことは、社会教育と学校教育との連携という点からも意義がある。この取り組みを単発の講座で終わらせず、継続的な地域活動へと発展させていくことを期待したい。

図書館については、昨年度と比較して来館者数、貸出者数、貸出点数のいずれも減少している。図書館の役割は資料の貸出だけに限定されるものではないが、市民の読書活動を支える中核的な施設である。蔵書数を増やすことも大切であるが、展示、イベント、情報発信等を通して新たな利用者との接点をつくるとともに、利用実態や市民のニーズを継続的に把握することが求められる。

２．　文化を新たに創造するまち

逗子アートフェスティバルについては、地域の高校生・大学生との連携、空き家やまちなかの空きスペースの活用など、文化芸術を単独のイベントとしてではなく、まちづくりや多世代交流へとつなげる工夫がなされている。一方、逗子市文化祭では高齢化に伴う会員数の減少なども課題として認識されている。既存の文化活動を継承するとともに、若い世代やこれまで文化活動に参加してこなかった市民が参画できる仕組みを検討していただくことはもちろんのこと、現在活動をされている方々への適切な支援も重要である。

３．スポーツを楽しむまち

成人の週１回以上のスポーツ実施率は目標値には達していないも

のの、前年度からわずかながら上昇している。そのため今後より一層の改善が求められるといえよう。総合型地域スポーツクラブでは、新たにピックルボールを取り入れるなど事業内容を工夫し、会員登録数も 505 件と前年度を上回っている。指導者養成教室、ジュニアスポーツ教室、地域体育祭、市内一周駅伝競走大会等、多様な機会を通じて市民がスポーツに触れる環境を維持している点は評価できる。今後は、スポーツを実施していない層がどのような理由で参加していないのかについても把握し、参加への障壁を低減する取り組みにつなげていくことを期待したい。

４． 学校教育の充実したまち

学校生活アンケートでは、「授業がよくわかる」「学校が楽しい」とする肯定的回答がいずれも 8 割を超えており、学校における「居場所づくり」を重視した取り組みの成果が一定程度表れているといえよう。また、全小中学校の校内支援教室への専任の指導員配置など、不登校対策の充実が図られている。ただし、不登校支援については、支援の場を整備するだけでなく、学校内外のいずれの支援にもつながっていない子どもをどのように把握し、必要な支援へとつなげるかという視点も引き続き必要である。

さらに、コミュニティ・スクールの全地域でのスタートに向けた準備が進められている。学校運営協議会の設置そのものを目的とするのではなく、既存の学校支援地域本部や地域学校協働活動との関係を整理し、それぞれの仕組みをどのように有効的につなげていくかが重要である。学校と地域との連携が、一部の担い手への過度な負担に依存しない持続可能な仕組みとなることを期待したい。

５． ふるさとの遺産をまもりつないでいくまち

文化財保護については、市指定文化財が 23 件となり、次年度の新規指定に向けた準備も進められている。また、池子遺跡群資料館の来館者数は前年度よりも増加している。文化財は保存することに加え、市民が地域の歴史や文化を知るための教育資源として活用することも重要である。学校教育や社会教育との連携を含め、文化財に触れ、その価値を次世代へ伝える機会を継続して創出していただきたい。

６．　誰もが心豊かに子育て・子育ちできるまち

子育て支援に関する事業については、利用者数等の数値の増減のみで成果を判断することが難しい。昨年度も指摘したように、支援を必要とする家庭や子どもに必要な支援が届いているかという視点から評価することが重要である。その意味では、妊娠期から子育て期までの相談支援、保育、居場所づくりなどを個々の事業として捉えるだけでなく、相互に連携した支援体制として構築していくことが求められる。

体験学習施設「スマイル」の主催講座については、延べ参加者数が956人となり目標に達していない。その要因として、講座の中止や講師確保の難しさなどが分析されていることから、募集方法、開催日時、講師の条件等を見直すとともに、子どもたち自身の意見やニーズを把握しながら事業内容を検討していくことを期待したい。

○　まとめ

逗子市の規模や地域特性を生かしながら、分野や担当課を越えた連携によって、市民及び子どもたちの学びと育ちを支える教育行政がさらに推進されることを期待したい。

〈学識経験を有する者の意見、助言〉　＜寶川雅子氏＞

前年度までの取り組みや反省等を踏まえ、逗子の特徴を生かしながら各事業が工夫をして取り組んだことが窺える。逗子の実情を把握したうえで、よりよいまちづくりをしていこうという意識をもって継続して努力されていることに対し評価をする。

１．　子どもも大人も共につながり成長していく生涯学習のまち

【学習機会の提供による社会教育の推進】

講座の取り組み方法に工夫がみられる。社会教育委員が講師となり講座を実施したり、開催場所を学校にするなど、年齢・立場を超えた出会いや繋がりを創ることを可能にしたと考えられる。また、講座の実施方法を参加型にしたことも、参加者が主体的に受講できる方法であったと考えられる。外部有識者の意見にも述べられているが、参加者の満足度が高い講座は、工夫しながらも継続していただきたい。そして、人々の「つながり」「かかわり」を考えるならば、単発の講座よりも継続的な講座のほうが望ましいだろう。図書館活動事業においては、来館者数等の減少が見られたようであるが、図書館を必要としている方も多くおられるため、図書館の魅力発信に努めていただきたい。これは、子どもと本との出会いにもつながっていくと考えられる。

今後の取り組みに期待をしたい。

２．　文化を新たに創造するまち

【文化芸術活動の推進（継承と創出）】

「まちが文化を活かし、文化がまちを活かす」地盤を目指し、今年度も文化芸術活動の推進を、3つに分けて具体的に取り組まれた。

逗子アートフェスティバルの充実においては、地域の高校生・大学生と連携を図った取り組み、空き家・町中の空きスペースの活用等、今年度も創意工夫がみられ、アートを通したまちづくり、多世代交流につながっている。

文化芸術活動の振興に係る事業の推進においては、昨年度同様、高齢化による会員数の減少が課題の一つではあるようだが、「逗子市文化祭」が市民文化活動の成果発表や市民の鑑賞の場として定着していることは評価できると考えられる。課題改善に向けた取り組みを継続していただき、少しでも改善につながることを期待する。

子どもを対象とした文化活動の振興に係る事業の推進（アウトリー

チ活動等）においては、今年度も、多くの講座等の実施が見られた。０歳から参加できる催しへの参加人数が多く、市民のニーズとマッチしていることが窺える。今年度の経験を次年度に生かしていただきたい。

３つの取り組み共に、外部有識者の意見も取り入れながら今後も「まちが文化を活かし、文化がまちを活かす」地盤を目指し、継続した取り組みに期待をしたい。

３．スポーツを楽しむまち

【スポーツの推進】

「いつでも、どこでも、誰もが気軽にスポーツ、健康づくりができるまち」を目指し、スポーツの推進のために５つの取り組みを、それぞれ工夫し実施している。

スポーツ活動に係る事業の推進では、健康相談、シセイカルテ分析結果説明、協会、センターとの連携活動等、市民のスポーツによる健康づくりのための支援体制構築に努めていると考えられる。シセイカルテへの関心が高いことから、より一層の周知に努めていただきたい。

総合型地域スポーツクラブの普及・啓発においては、新たに人気スポーツを取り入れたり、人気メニューの開催回数を増やすなど、市民のニーズに合った取り組みを行っている。スポーツ協会、うみかぜクラブとの協議による教室の実施も良い。

逗子市スポーツの祭典の開催では、スポーツの祭典がスポーツを始めるきっかけとなることが多いことから、今後も、開催場所、内容、種目、企画等、市民のニーズを把握して開催していただきたい。

マリンスポーツ等、海でのレジャー体験は、逗子の特性を生かした魅力あるスポーツの一つだと考えられる。屋外活動のため、天候等の影響を受けやすいと思われるが、気候の変動・災害への備え等にも十分配慮しながら継続していたき、逗子の魅力発信に努めていただきたい。

子どもを対象としたスポーツ活動に係る事業の推進においては、今回も、乳児期から保護者と参加できるプログラムを実施されている。乳児期から保護者とともに体を動かす楽しさを感じられる機会となっていると思われる。

いずれの取り組みも、工夫がみられる。外部有識者の意見も参考に

し、市民のニーズを生かしながら継続して取り組んでいただきたい。

４．　学校教育の充実したまち

今年度も、「豊かな人間性」・「確かな学力」・「健康な心身」を目標に、「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる逗子の子ども」の育成を取り組みの方向性とし、４つの具体的施策に取り組まれた。

【教員の指導力及び教育課題への対応力向上】

昨年度同様、どこともつながれていない子どもたちが存在しているとのこと。早急な対応を望む。昨年度は、いじめ防止基本方針の見直しに着手したようであるが、今年度は、「居場所づくり」をキーワードとしているように見受けられる。不登校施策は行われているようであるが、そのうえで、「居場所づくり」の中に、どこともつながれていない子ども・不登校・ひきこもり・いじめ等にかかわる対策も含まれていると嬉しい。教員の質向上は子どもの人生につながることでもあるため、引き続き取り組んでいただきたい。子どもを取り巻く環境がめまぐるしく変化をしていく中で、世の中の状況・子どもがおかれている状況を踏まえ、良く取り組んでいると考えられる。外部有識者の意見も参考にしながら継続した取り組みに期待する。

【子どもの発達段階に応じた継続した支援】

市民向け公開講座やSNS等を活用し、「発達障がい」「療育」についての情報・知識を市民に提供していくための工夫をしている。手引きを作成し就学前の保護者への説明を行っているとのこと、説明だけよりもより理解ができる工夫だと考えられる。かかわる支援者がチームとなって活動することは、情報を提供する方・情報を受け取る方双方にとって有効的であると考えられる。「支援シート」が重要な役目を果たしていることが窺える。今一度、「支援シート」が子どもの発達・療育・支援に意義ある内容であるものであるのかを確認していただければと思う。

【ICTを活用した授業と情報教育の推進】

ICTの活用が定着しているようである。実情を踏まえながら、今後も効果的な活用方法の検討をお願いしたい。インターネットやSNSに係るトラブルにおいては、トラブルがなくなることはないと考えられる。継続して子どもへの意識づけを行っていただき、少しでもトラブル減少につなげていただきたい。

【地域教育力の効果的な活用と幼・保・小・中の相互理解の促進】
地域講師を活用した授業の実施は、子どもたちの学びの広がりに繋がっていると考えられる。丸投げ的な授業（体験）にせず、教育に効果的な工夫を願う。コミュニティ・スクールの導入から、全地域でのスタートに向けた準備へと前進したことは素晴らしい。その都度課題も出てくると思うが、その中での最善を考えて実現に向かってほしい。校種間連携においては「学び」に対する校種ごとの考え方を共有しながら引き続き連携に取り組んでいただきたい。

５．　ふるさとの遺産をまもりつないでいくまち

有形文化財１件の指定準備を進めているとのこと。引き続き他の文化財の指定においても計画的な準備を進めていただきたい。また、デジタル技術等効果的な公開方法を模索し、より多くの市民に公開できるようになり、「ふるさとの遺産をともにまもり、つないでいくまち」の実現に近づけいただきたい。

６．　誰もが心豊かに子育て・子育ちできるまち

「地域と共に子育て・子育ちできるまちづくり」をめざし、４つの具体的施策に継続して取り組まれていることが窺える。
【妊娠前からの子育ての相談・支援の充実】
妊娠前、そして妊娠期から産後に至るまでの継続サポートは、妊娠を考える者、不安を抱えている者、子育てを行なう者らにとって心強いものだと考えられる。引き続き個々の状況、気持ちに寄り添える相談・支援を行なってほしい。また、他部署・他機関との連携を是非強化し、安心して子育てができるまちづくりを目指してほしい。
【子育てを支える取り組みの推進】
１６の取り組みを行い多方面から子ども・子育てを支えていることが窺える。重要業績評価指標として、ファミリー・サポート・センターの登録数増加を挙げている。増加に至らなかった分析が、自己評価に記されている。具体的な分析がなされている。これまで、自己評価に基づいて改善をしながら取り組んできているように思う。登録数伸び悩みの原因は、自己評価で記された内容のほか、少子化、高齢化、共働き世帯の増加等の影響も少なからずあるのではないだろうか。

【幅広い保育ニーズの対応できる体制づくり】
　待機児童解消に向けた取り組みを行なっている。「保育所に入所できる」という時代から、「保育所を選ぶ」時代へと変化をしてきた。入所に対し、これまでとは異なる課題も見えてくるのであろう。状況とニーズを踏まえ、その時々に応じた対応を引き続き行っていただきたい。
【子どもたちの居場所づくりの推進】
　重要業績評価指標が、体験学習施設「スマイル」主催講座の延べ参加者数が年間 2,000 人となっている。今回は、目標値の半分を下回ったようである。複数の要素が重なったことが原因であると分析できているため、今後の取り組みに生かしていただきたい。子どもたちは講座やイベントを楽しみにしていると思う。子どもたちのために、講座やイベントが中止になるという事態が起こらない準備をお願いしたい。

○　まとめ
　いずれの取り組みも、前年度の課題等を反映し、工夫したり改善を試みて、より良く取り組もうとしている様子が窺える。取り組みによっては、評価シートから、取り組みの状況や取り組みに対する振り返りの内容等、具体的にイメージできるものもあり、今後に生かせる自己評価だと思う。
　今年度の報告書では、「連携」・「協働」・「継続」が、キーワードだったように感じ、多くの取り組みの中で、「連携」や「継続」を意識しながら施策を推進していることがわかった。
　横のつながり、つながりの連続によって、新たな時代に向けて逗子ならではの良さがさらに引き出されるのだと考えられる。
　一人でも多くの方が逗子に住みたいと思える施策への取り組みに期待する。そして、各施策に取り組んでくださっている皆様に感謝する。

逗子市教育委員会　教育部教育総務課
〒249-8686
神奈川県逗子市逗子５－２－16
TEL046-873-1111
FAX046-872-3115
E-mail　kyouiku@city.zushi.lg.jp